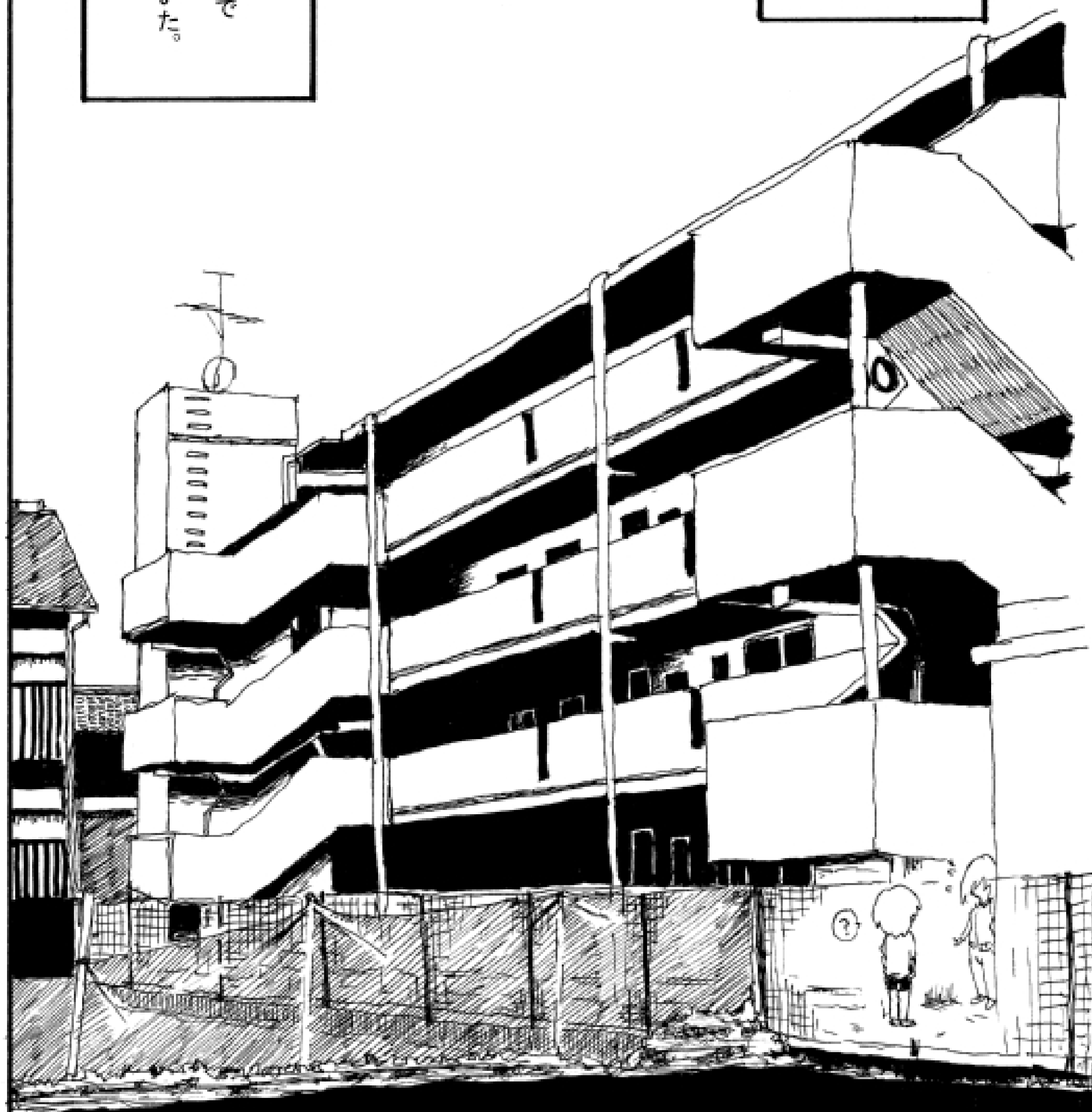
きっかけは、本当に偶然だった。

あれ、あま姉(ねぇ)？

あ。

暑い、夏の午後。
友だちのいない僕は、
うっとうしい妹の子守りや
留守番をほうり出し

連日、裏庭の涼しい日陰で
遊び飽きたゲームを
ダラダラとくり返していた。




あま姉（本名は蛍山あまねさん）は、同じマンションに住む顔なじみ。
ゴ、ゴメンね
ヘンなとこ
見せちゃって！
マ、マズいとこ
見られちゃった
なあ～～・・・
サッ
僕はその時、単純に
「どうして大人の持ち物を持ってて、
なぜわざわざ外で吸うんだろう」
としか思わなかったので


あまりにもうろたえるあま姉の姿に、
大変なところを見てしまったのか、
と申し訳なくなった。
え、
だ、大丈夫だよっ
僕、口堅いし、その
話す人もいないし・・・
僕、誰にも
いわないよ
すると、

ホ、ホント!?ホントに?

ありがとう、助かるよー!!

あま姉はとても安心してくれたので、僕もほっとした。

ウ、ウン平気だよ・・・

僕その、口堅いから・・・

でも、同時に怖くなった。

この人は、不良なんじゃないか?

きみも吸えよと強要されたり、殴られたり脅されたりするんじゃないか。僕は怯えた。

しかし、

ゆう君はこんな中学生になっちゃダメだぞ?

・・・それじゃ、

あま姉は、それをしなかった。

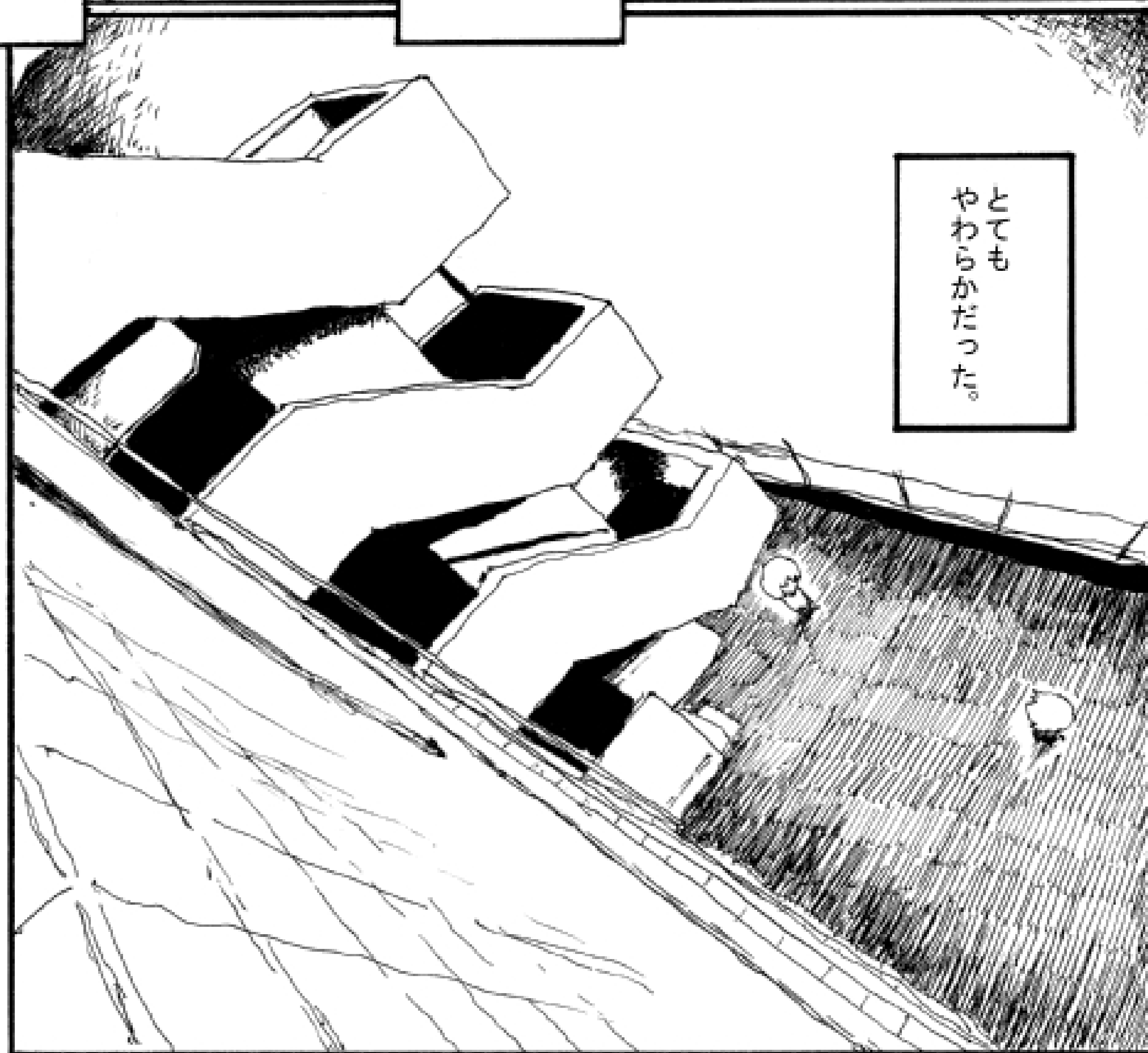
ザ

友達のとこ行ってくるから、

またね・・・

夏の日差しに照らされたあま姉の肌はとても綺麗で、

僕に語りかける声はふわりと優しくて、



出てけよ
ジャマなんだよ!!

僕は、妹が憎くて仕方なかった。

ドンッ

一方的に怒るばかりのお母さんも、大嫌いだった。

コラゆうま!!ちゃんとお兄ちゃんらしく

香穂のこと見ててよね、まったくもー!!

ウワーン

お母さん集会で忙しいんだからまったく、大変なのよ・・・

ガチャ

何よりも、大好きだったお父さんが完全に妹びいきになり、全く構ってくれなくなったことが、妹に対する憎しみを強めていた。

オラッ母ちゃん帰るまで部屋には入ってくんなよな!!

ワァァァ

ドガッ

バタム

僕は、「お姉さん」がほしかった。

ワーーー

カチカチ

カチカチ

年下は憎たらしい。同級生はいじめる。オバサンは口うるさくテキトーで、子供の話なんて聞きやしない。

優しくて、普通におしゃべりができる心の拠り所が、たまらなく欲しかった。




あま姉は、優しいと思う。
でも馴染みが薄いし、
学校も違う。
気軽に頼れる度胸はない。

あーーーっ鶴川ゆうまーーハナクソほじっただろ今ーー!!!

な、なんだよっ ヒジついてただけ・・・

ワーまた言い訳してる 嘘ついてる 私見たもん嘘つき!! ねーーーみんなあああ

ガガガ…

い、いい加減にしてよっ 毎日毎日言いがかりばっかりつけて いじめてきやがってっ

うるせーんだよハナクソ!!!

ツバ飛ばしてんじゃねーよ

耳障りなんだよ

ウワ、汚えー

声がキモイ

またウソついてんの？

うわ半ベソかいてね？

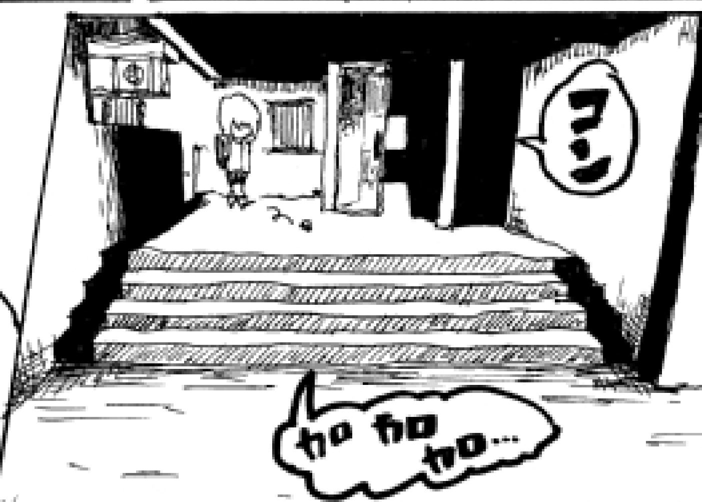
まず ウルサイよね

気持ちわりーんだよ

あの辺の空気汚染されてるわ

・・・!!!

私も見てた




コン

・・・・・・・。

カロカロカロ・・

バタム

ただいまー

ズンズンズ

ゆうま、おかえり・・・

あ、あれお父さん
珍しいね!

こんなに早く帰

お前、
なぜもっと早く帰って
香穂(かほ)を見てなかった!?

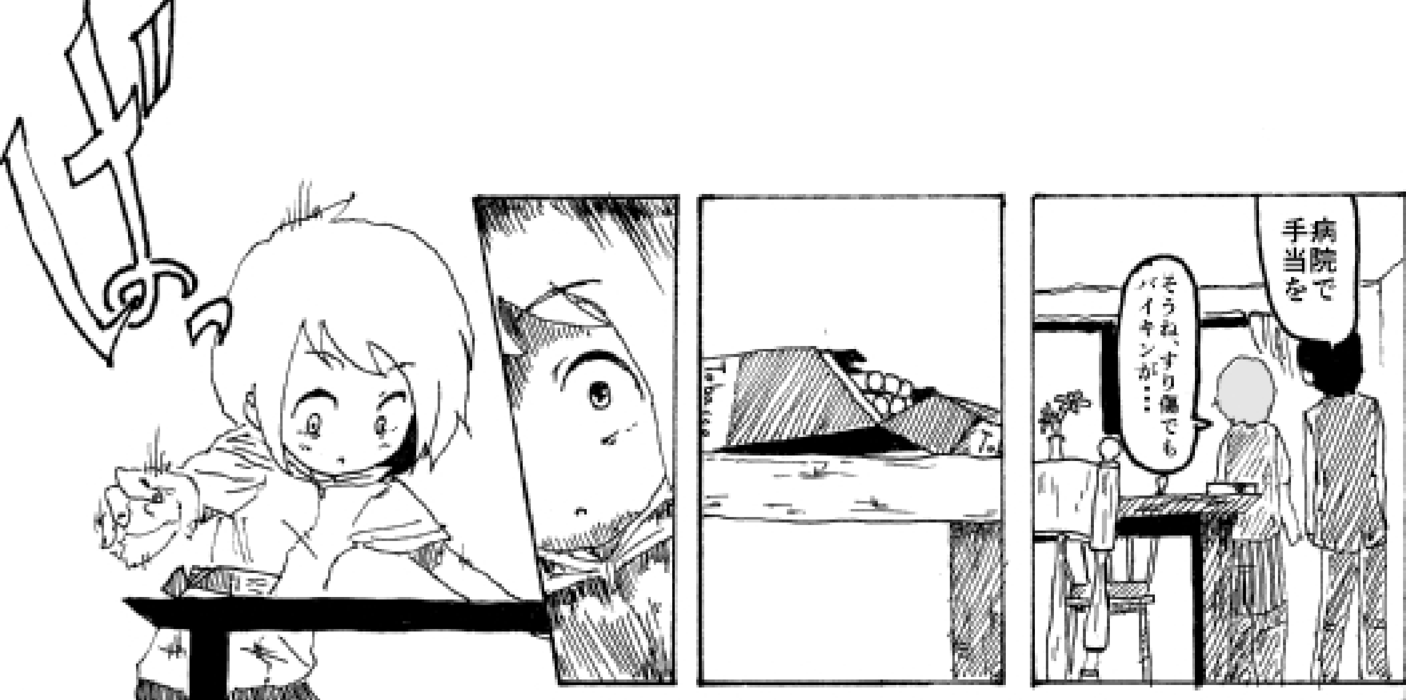
香穂は、台所で転んで
血まで流してたんだぞっ!!!

お前はもう兄なんだぞ!!
自覚を持て!!!

・・・ゴメンナサイ

・・・ハイ

そんなの勝手に転んだ香穂が悪い。
遅くまで帰らないお父さんが、
いつもどこかに出かけるお母さんが悪い。
僕だって今日もつらかった。ケガがなんだ!
なんでこんなに怒られなきゃならない?
そう思っていた時。







気付くと

あま姉の住む一室の前に来ていた。

・・・

・・・

ぽり
ぽり

ガチャ

♪♪

ふんふん

・・・

♪

タバコ大変ですよね

高いですよね

親から盗むの大変でしょう　プレゼントです！

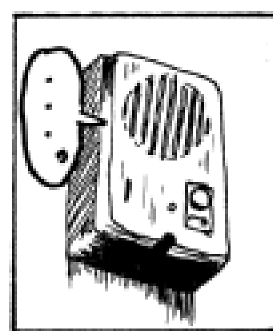
喜ぶかな？どうだ？そこから遊びに誘える？
わからない、どうだ、やってみないと

ちゃいむ

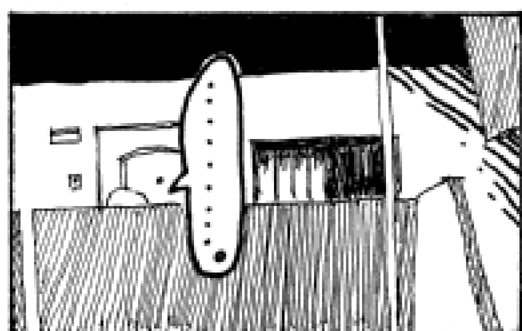
押す!?押す!?押す!?押す!?押す!?押す!?

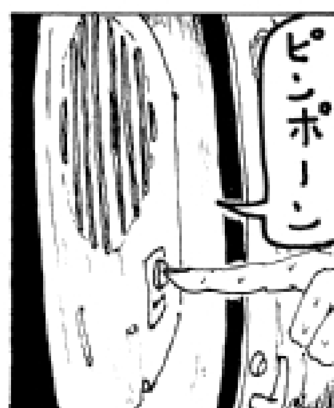
押す!?押す!?押す!?押す!?押す!?押す!?押す!?押す!?

ピン
ポーン

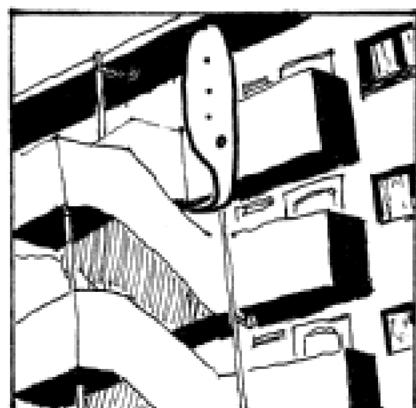

…




……

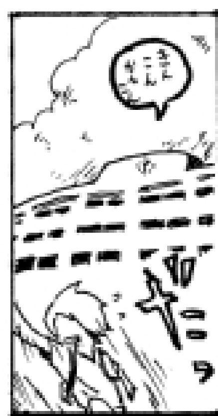

ピンポーン

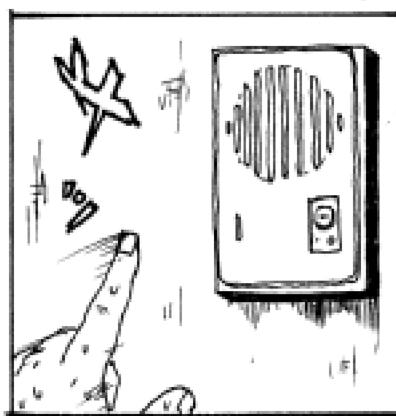

ピンポーン


…

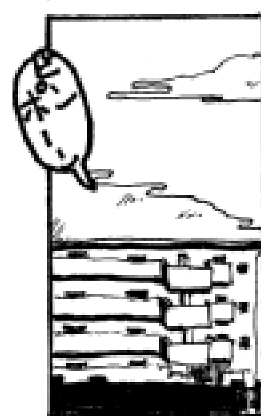
………いないのか………
カァ〜〜…
カァ〜…
ニャオォォウ

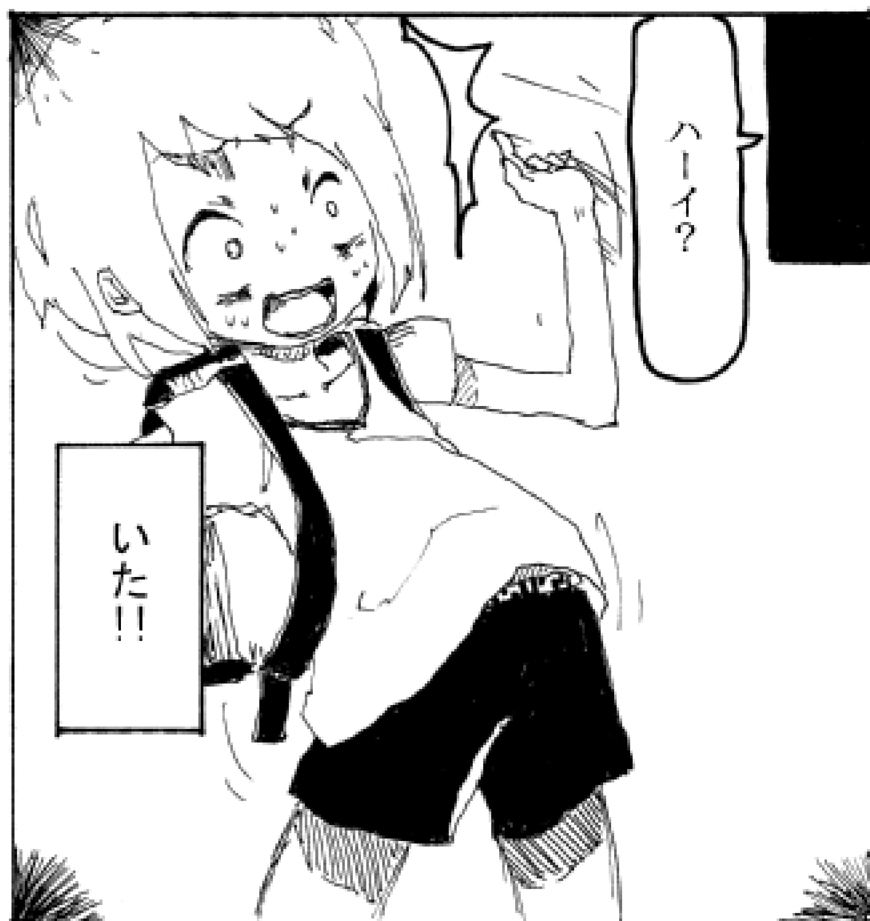

そそそわわ
そわそわそわ
…
ガタガタガタ


ダーッ

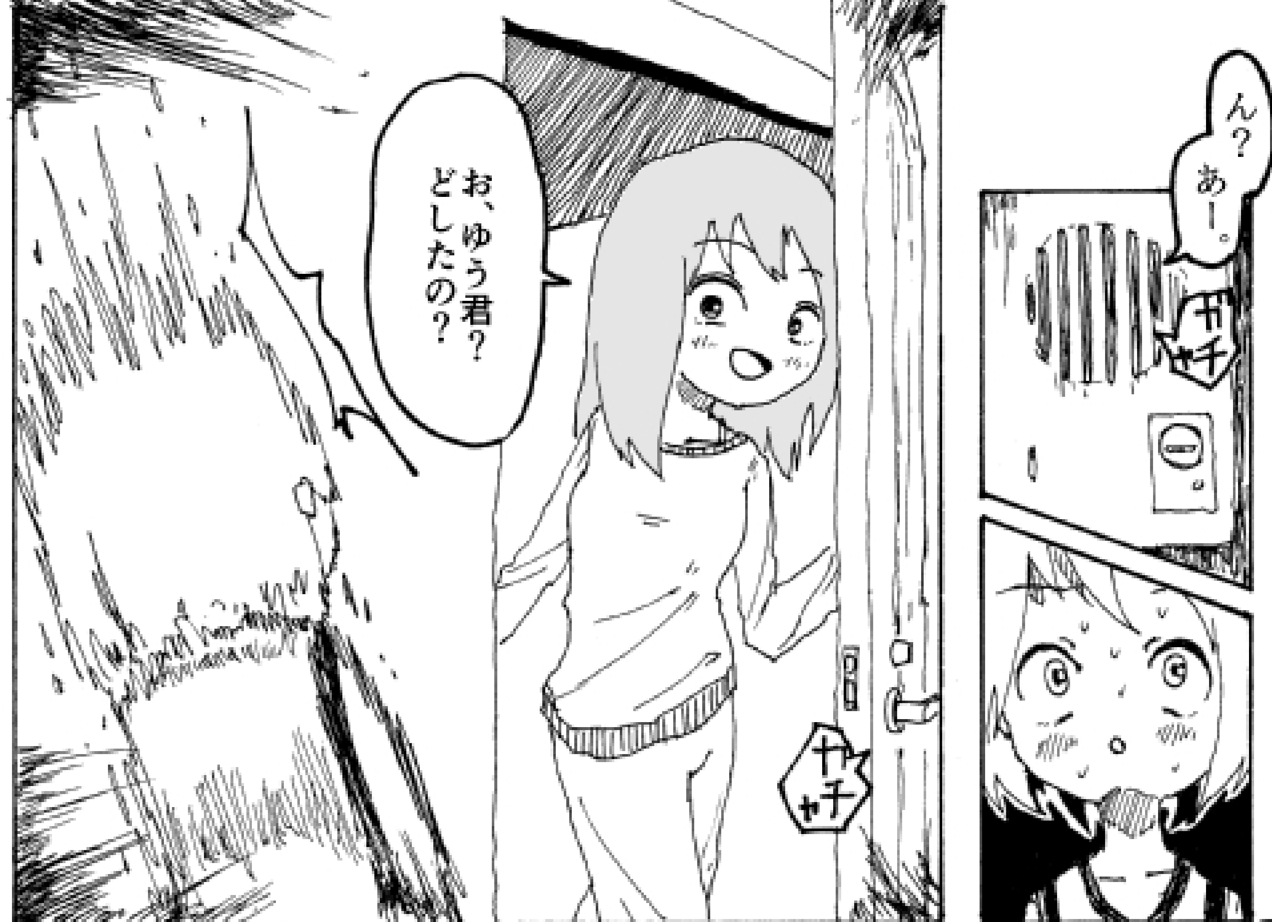





ピンポーン


ハーイ？
いた!!

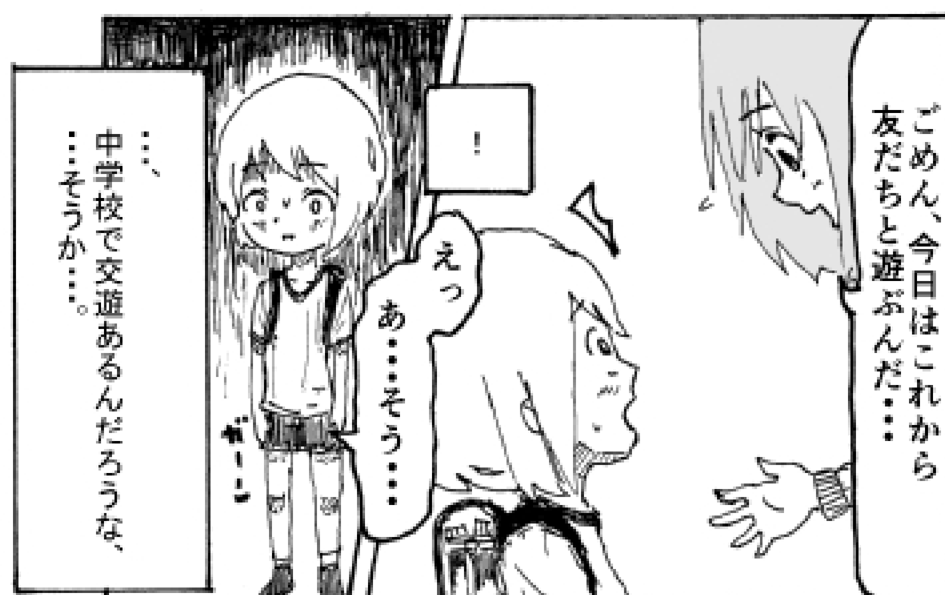

…あ、あまねさんいますか？
いた！いた！いた！いた！いた！いた！いた！いた！いた！いた！いた！いた！


ん？あー。
ガチャ
お、ゆう君？どしたの？
ガチャ


あ、……………
あの………
どーしたの？そんな緊張することないよ？
にこっ


やっぱりあま姉の言葉には、包まれるような優しさがある…と思った。
…ウン あの、
あ、遊びたい…。


あ〜・・・


ごめん、今日はこれから
友だちと遊ぶんだ・・・
！
えっ
あ・・・そう・・・
・・・、
中学校で交遊あるんだろうな、
・・・そうか・・・。
ガーン



・・・。
あ、これ・・・
あげます。


！
どーしたのそれ!?


本当は、口実作りの
ためだったけど・・・
ウン、
あの・・・
え、え？



あま姉、これもらったら喜ぶかと思って・・・
親からもらったり、買ったりするの
大変かと思って


その、プレゼントしたくて
持ってきました・・・

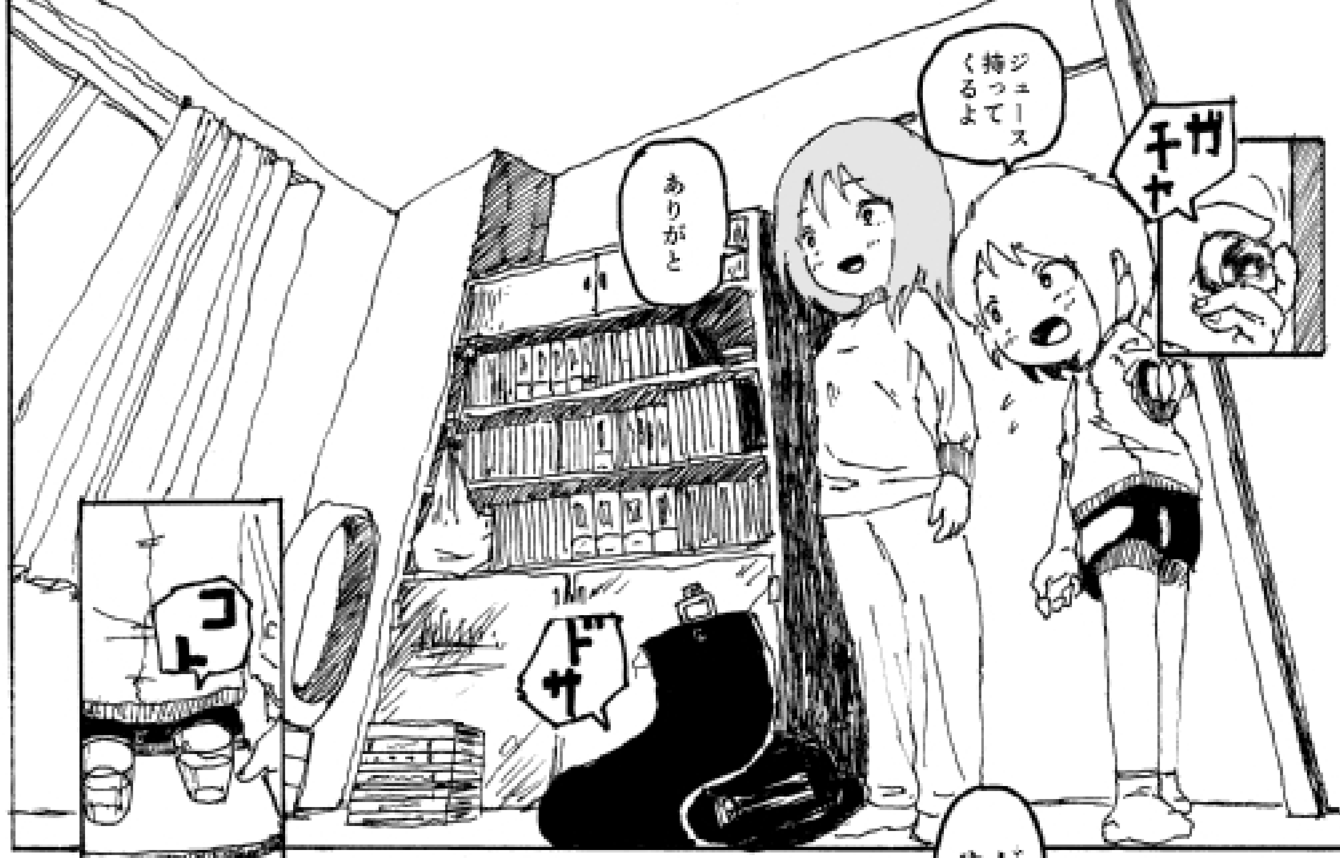

・・・！

…
よし、じゃ明日遊ぼっか！
え!!
翌日
そわそわそわそわ
ガタガタ
…
きんこんかんこん

えっ、あま姉の家はダメ？
なんで？
それは、僕がインドア派なのもあったけど
うちは、どうしてもダメなんだよ・・・ゴメン、君の部屋で遊ぼうよ。
外は暑いし、体力差もあるだろうし、どうせならあま姉の部屋がいいな・・・という軽い希望だった。

ガコッ
あま姉は、女の人らしいいい香りがした。
ワク
ワク
ヴィーーーーーロロロ
男子やクラスの女子と違って肌も綺麗で、控えめに染まった髪がカワイイと思った。
チーン

今日は、特別な日だ。そう感じた。
ここだよっ
あ、ここなんだーわりと近いね？
でも、あま姉はいつもと何ら変わらないラフな出で立ちだったので、少しガッカリした。
ガチャ
おじゃましまーす
ただいまー（僕）
あらーあまねちゃんいらっしゃい！（母）
いらしゃーい（妹）


ガチャ
ジュース持ってくるよ
ありがと
コト
ドサ

ゲームでもやる?
ウーン、私ゲームやんないんだよね。
あ、漫画は読むよ
あっじゃあこれなんか・・・

カァ〜〜

ワーこれ持ってない巻に
今週のジャンプじゃん毎週買ってるの?
ウン、そうなんだよ、それで・・・










女の人と遊ぶのはなんて楽しいんだろう。




男子みたいにギスギスしたり、競争したり、殴ったりがない。ただ安心して仲良くできるってことは、なんて幸せなんだろう。




僕が弱っちくて、誰にも勝てないから特にそう思うのかもしれないけど…今はそんなことより、この幸福感に浸っていたかった。

二週間ほどすぎる。

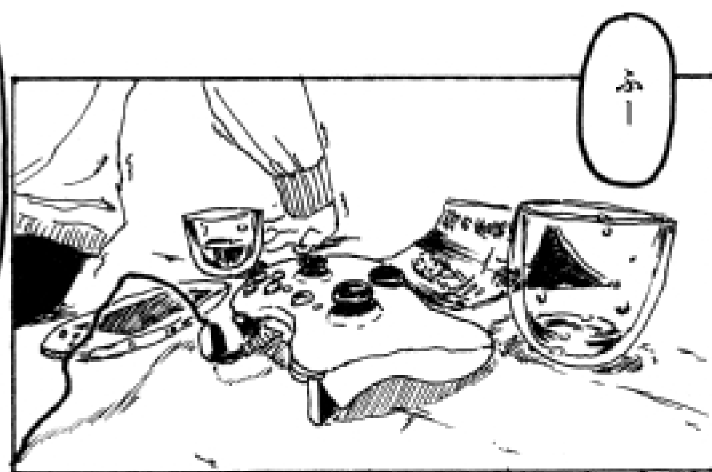
なにせ家が近いので、一日中遊ぶのでなくてもちょくちょく漫画を読みに来てくれていた。



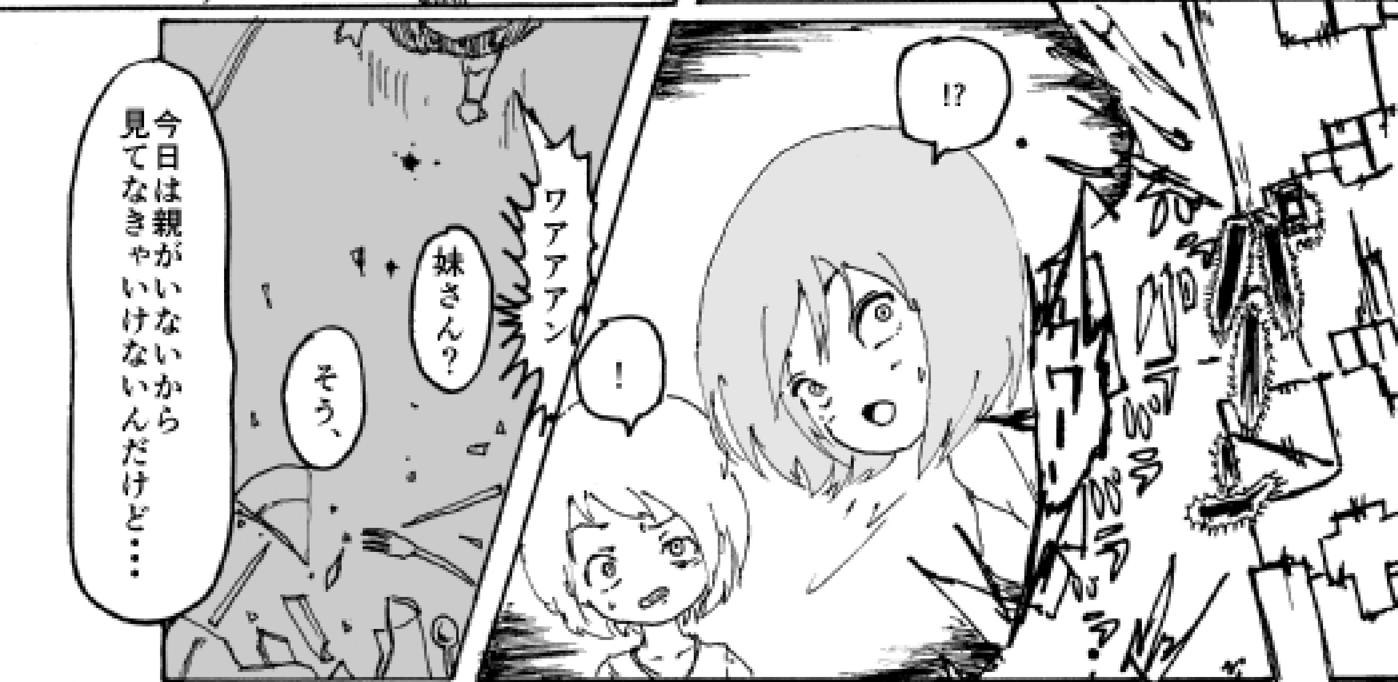

ただ…
家の話をふると、いつも曖昧な返事でかわされるのが気になっていた。

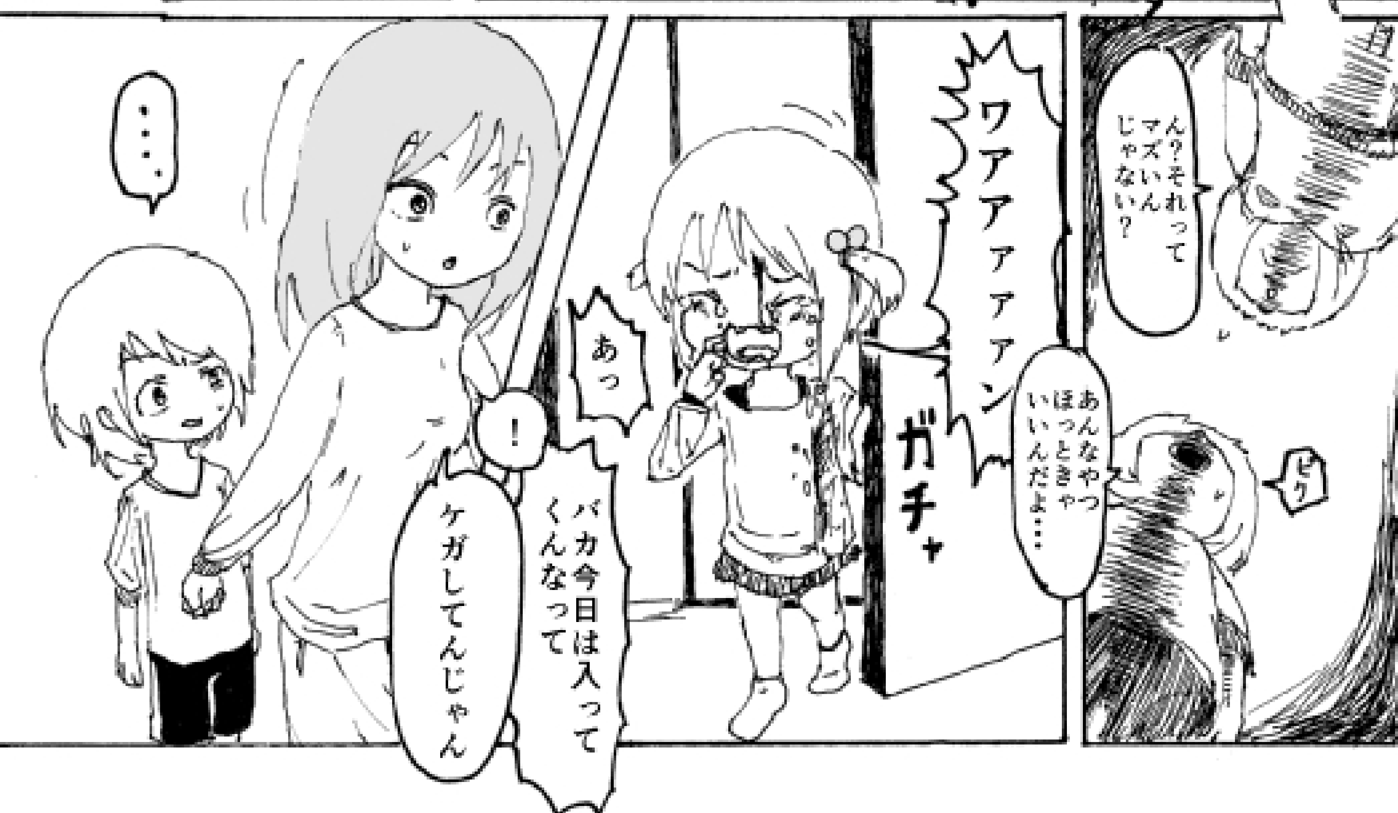
そんなある日。

お母さん、今日は一日中集会だから。
香穂の世話よろしくね。
え!?
今日はあま姉とずっと・・・
そんなの自分で何とかしなさいよ!
じゃ、いってくるわね
バタム
・・・
今日は一日ぜってー部屋に入ってくんなよ!!
ぐいぐい
うー
ピンポーン


ふー


漫画もいいけどゲームも結構面白いもんだね
ウン、ずっとやってると気持ち悪くなってくるけど・・・


!?
!
ワアアアン
妹さん?
そう、
今日は親がいないから見てなきゃいけないんだけど・・・

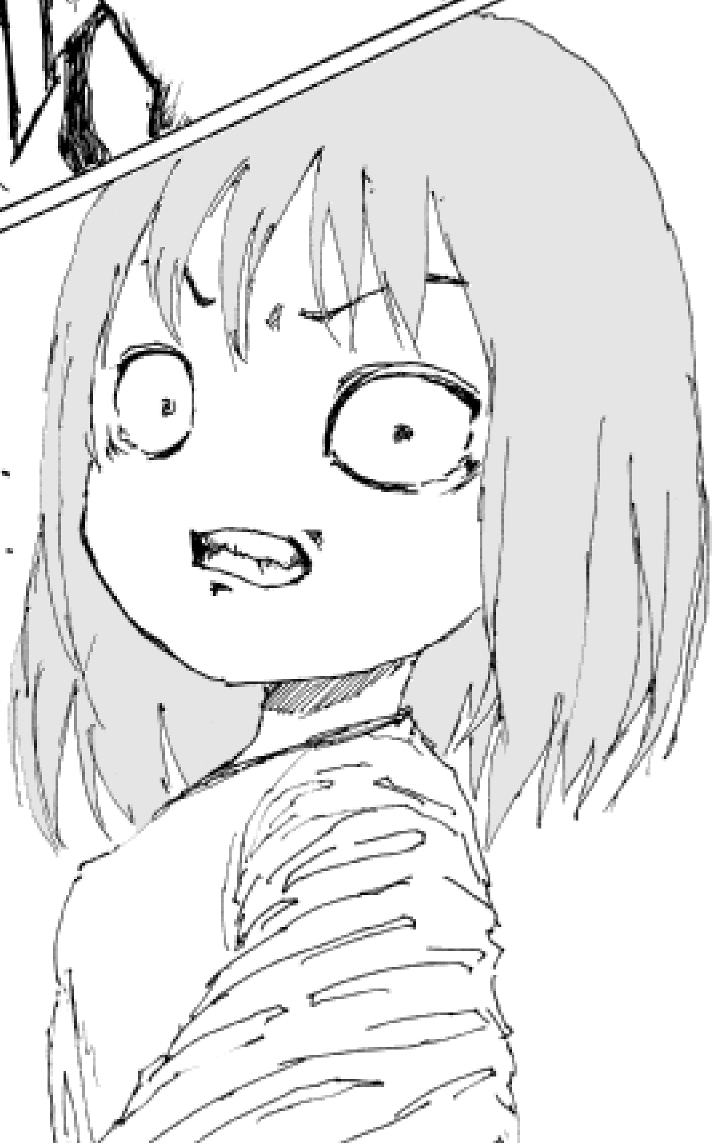

ん?それってマズいんじゃない?
あんなやつほっときゃいいんだよ・・・
ワアアアアアン
ガチャ
あっ
!
バカ今日は入ってくんなって
ケガしてんじゃん
・・・・

ぺた
小さい女の子なんだから、ちゃんと見てやってなきゃダメだろー。
…
別に今日は三人でこの部屋いればいいじゃん？
ひっく
ひっく
ばっ
よいしょっ
・・・！
よしよし・・・
なで
痛かったろー
ふぇ
ふぇ
なで
ぎゅ
……
ふーっ…
今日はお姉ちゃんと、お兄ちゃんと、
一緒にお部屋で遊ぼうなー。
なで
なで
なで
なで
なで
なで
・・・・・・!!!
なで
なで
なで
なで
なで
なで
なで

オ、オイッ!!香穂!!
今日は部屋入ってくんなって言っただろ!!
お姉ちゃんにも迷惑かかってんだろ!!出て行けよっ!!
え－、私は別に平気だよ?
う－っ
う、う・・・・・
いや、私弟いるんだけどさあ
こんなカワイイ妹だったらよかったな－、なんてね・・・
ピク
ぷに
ぷに
ぷに
出てけっ
ほらっ
う－!!!
てめっ・・・・
!
ダメっ・・・・


ガダーン
ワーーーン
はあ…
ゆう君!!!
あんなのはほっときゃいいんだよ、あま姉
えっ…






小さい子に手を上げる男は
最低だ!!!

う、

ポ

うわあああああ

あああああああ

ああああっ

ああああああああ
ああああああ

はっ・・・

あま姉の言ってることは、全て正しい。

間違っているのは、どうみても僕だ。

僕がこんなにも泣いてしまったのは、あま姉の恫喝だけではなく

日頃の鬱憤も全て、ぶちまけてしまいたかったんだと思う。でも、

しばらく時間が過ぎ、

落ち着いて目を開けると、あま姉は・・・

ごめん・・・。

ごめんね・・・。

手上げちゃって、

ごめん・・・。

本当に、

・・・ごめん

オーバーだと思った。

ごめん・・・。

ごめん・・・。

ごめん・・・

ごめん

間違ってるのは、僕なのに。



僕はまた、あま姉に大変なことをしてしまったのだ、と申し訳なくなった。




私も前 鶴川に触れたことあるけど、もう汚いしクサいし最悪でぇ…

テメーのせいでみんな迷惑してんだよ わかってんのかよお

…ゴメン

ガタタ

わー…ウチも前鶴川に触れられたこと思い出してきた… ウ…うわあぁん…

ともちゃん大丈夫!?

……

うっわー 鶴川が女子泣かせたよ ウッワーーーー 死ねよ!!!

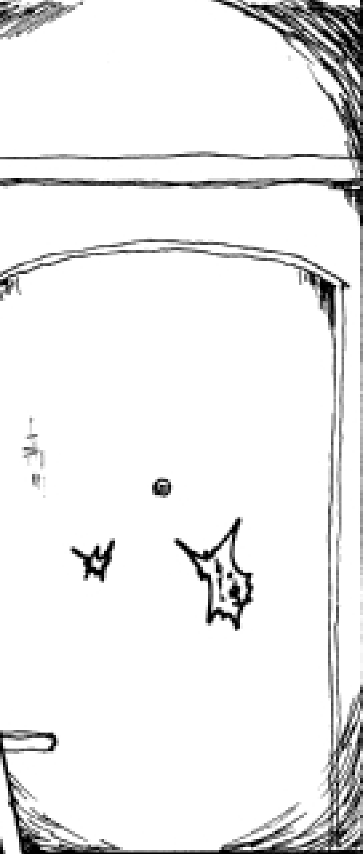
息すんな

やめてよ食事の前に鶴川の話ししないでよ気持ち悪い


カロカロカロ…
コッ
その日は早退した。
と言うより、
昼休みに紛れて脱走した。
コッ
カロカロ…
今日はお母さんが
香穂を連れて「集会」へ行くらしく、
早めに帰ってもバレないと
考えたからだが、


一刻も早く、
元気なあま姉と遊びたかった。
あま姉といる楽しさを
知ってしまった僕は、
ひとりに耐えられなくなっていた。
ピンポーン
僕は何となく、あま姉の
プチ不登校に気付いていた。
あま姉は、それを隠してる。

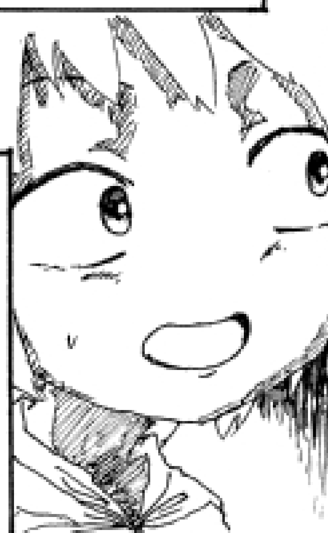
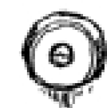

静かで、静かで、おだやかな午後。
遠くで風になびく葉ずれの音が
よく聞こえた。
いない…？
……。
今この場を去っても、
寂しいひとりが待っているだけだ。
庭先に大きく風になびくほどの
立派な木があったら、どんなに
カッコイイだろう。
お金持ちはずるいなあ～…。
そんな風に、ぼーっと考え事を
して待っていた時。



!
ドアの向こうから、かすかに人の声が聞こえた。

ぴとっ

夏の暑さとは裏腹に、日陰に隠れたドアははじめはひんやりと、次第に人肌へと温まっていった。

コォーー…
男の人と
女の声…？

あま姉かもしれない。でも、いるのならなぜチャイムに応えなかったのだろう。
一緒に遊びたい。優しいあま姉なら、取り込み中でも僕といてくれるんじゃないか。

ぐっ
ダメ元だけど…




ぶらっ

わ・・・

遊ぼっか・・・？

ドンッ

だ、大丈夫!?

あ・・・

とりあえず、
マキロンと絆創膏
持ってきてくんない？




いちち…
しみる〜〜

シュ

…それ、
どうしたの？

…

よかったら、着替え
貸してくれない？
Tシャツとか









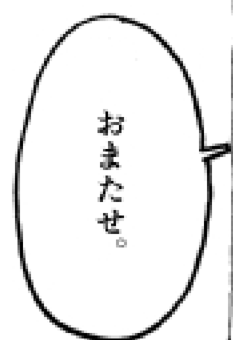

僕は何となく、あまり見られちゃいけないことなんだな、と思った。









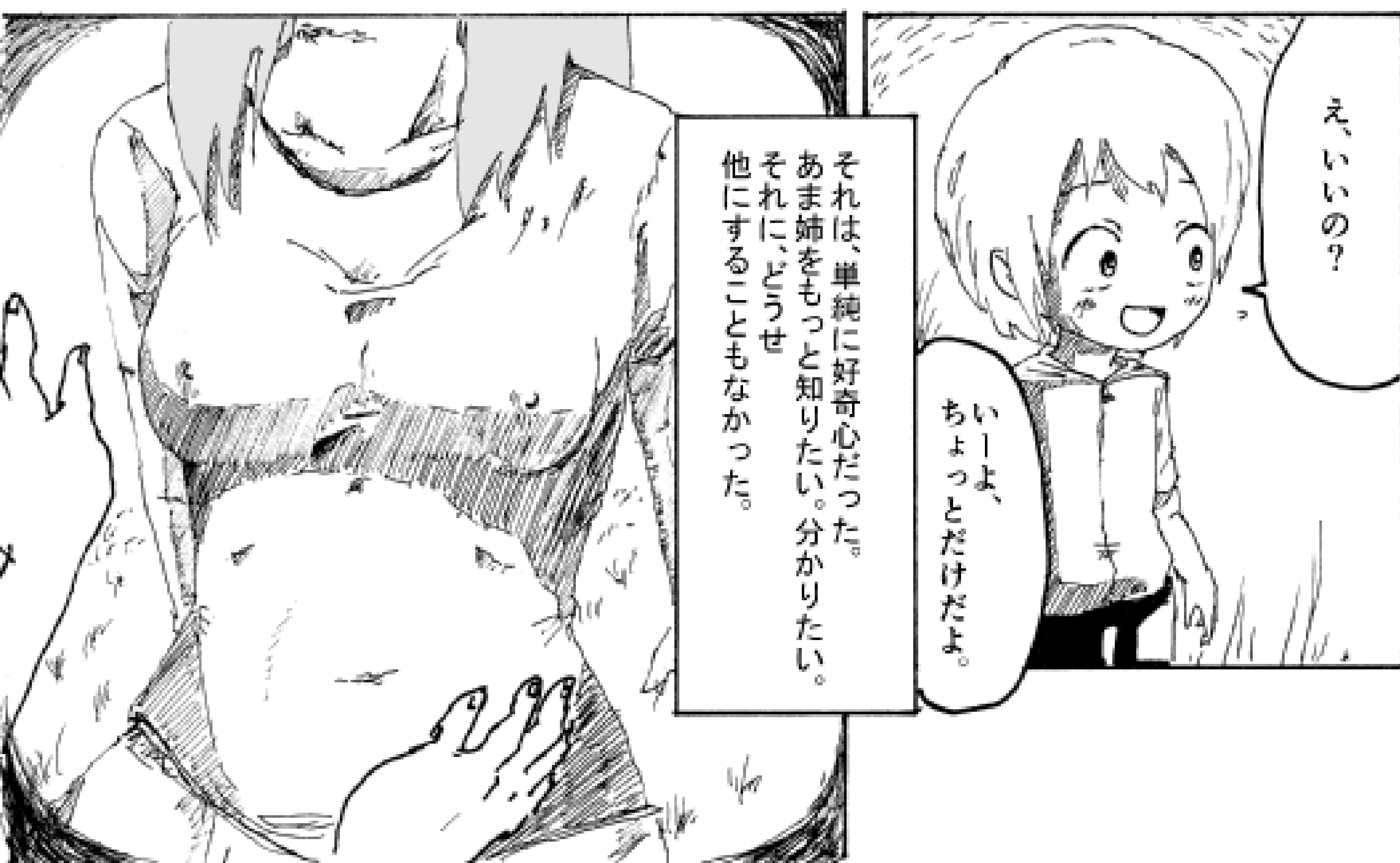


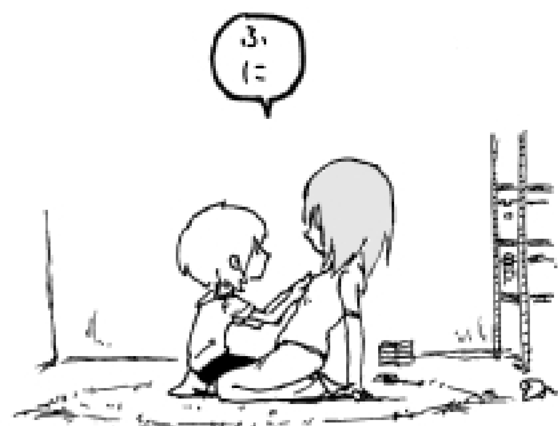
私ね、お父さんにいじめられるの。お父さんはね、
感情がいつもグラグラになる、ひどい病気だから。
キケンな時期は、私か弟が世話しなきゃいけないの。
だから、子供が殴られるとこ見るのダメでね・・・
それでこの間は・・・
僕は、「女の人の体」をこんなに近くで見たことがなかった。それは、単純に好奇心だった。
あ、いや僕こそ・・・
中学生にもなると、普段はブラジャーをつけているものなんだ、と思った。
家なんて、安心していられる所じゃないし。
このドア開けたら、ゆう君がいてくれたらいいなー、なんて思ってたらほんとにいたもんだからさ・・・

あはは、普段はブラつけてるからねー目立っちゃうねー。
あ、いやっ
僕は、考えを見透かされたような気がして恥ずかしくなった。
女の人の胸とかってよく見たことなかったし…
そんな見て楽しい？
…ってこれは目立つねー確かに!!
男の子なんて、ずっとぺたーっとしたまんまだもんねー、そりゃあ気になるかあ…
しばらく、何とはなしに沈黙が続いた。
静かで、おだやかな午後だった。
窓を閉めていても、外から、風になびく葉ずれの音がよく聞こえた。
…
…
ゆったりと…あまりにもゆったりと時間が進むのだった。
カーテンの隙間から漏れる陽の光を浴びながら、あま姉と僕は…
二人だけの安心感を、確かに分かち合えていた。
これまで過ごした、どんなひとときよりも…幸せかもしれない。

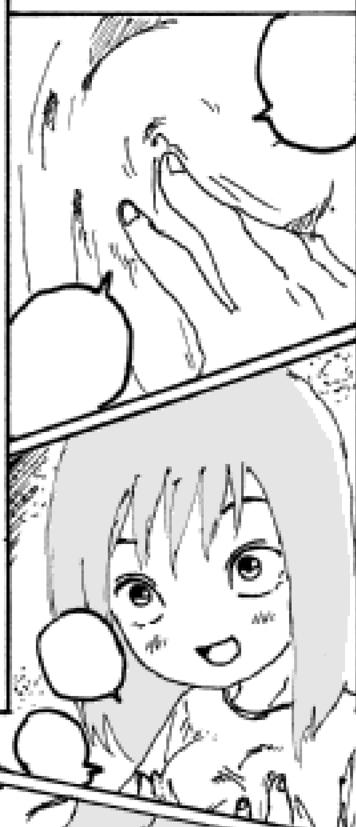
…触らせたげよっか？

ゆっくりしていて、お互い何となく
手持ち無沙汰になっていた。






何となく、イケナイ事をしている感じはあった。



でも、二人を包む大きな安心感が
その罪悪感を、限りなく薄めていたんだと思う。

やっぱそこずっと気になってた?
目立つもんね・・・

ふに

ふに

ウン・・・

ふに

ふに

ふに

ふに

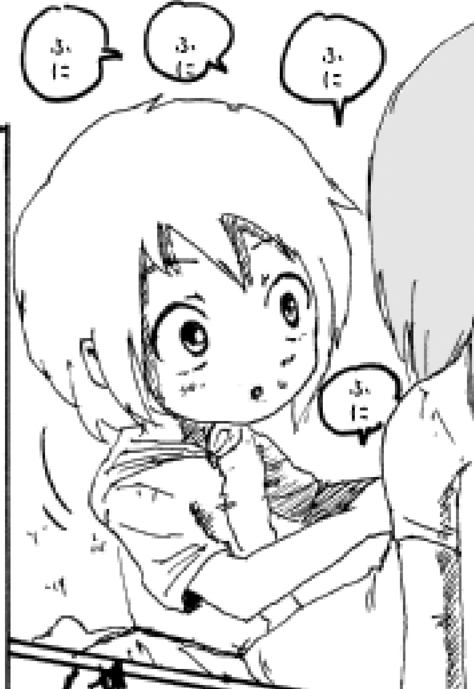
ふに

ふに

ふに



そして、ゆっくりと時が過ぎる。
見た時からポッチが
気になっていたので、
そこばかり触ってしまっていたが




それにしては
途中からあま姉が無表情になり、
会話の返事がなくなったのを
とても不自然に感じていた。




ギュッ

何か、気持ちがズレたのか？
幸せな安心感を
分かち合えていたはずなのに。
底知れぬ不安、焦燥に襲われそうに
なったので




とにかく何か反応がほしい、
確かめたい、と思った。

んあっ

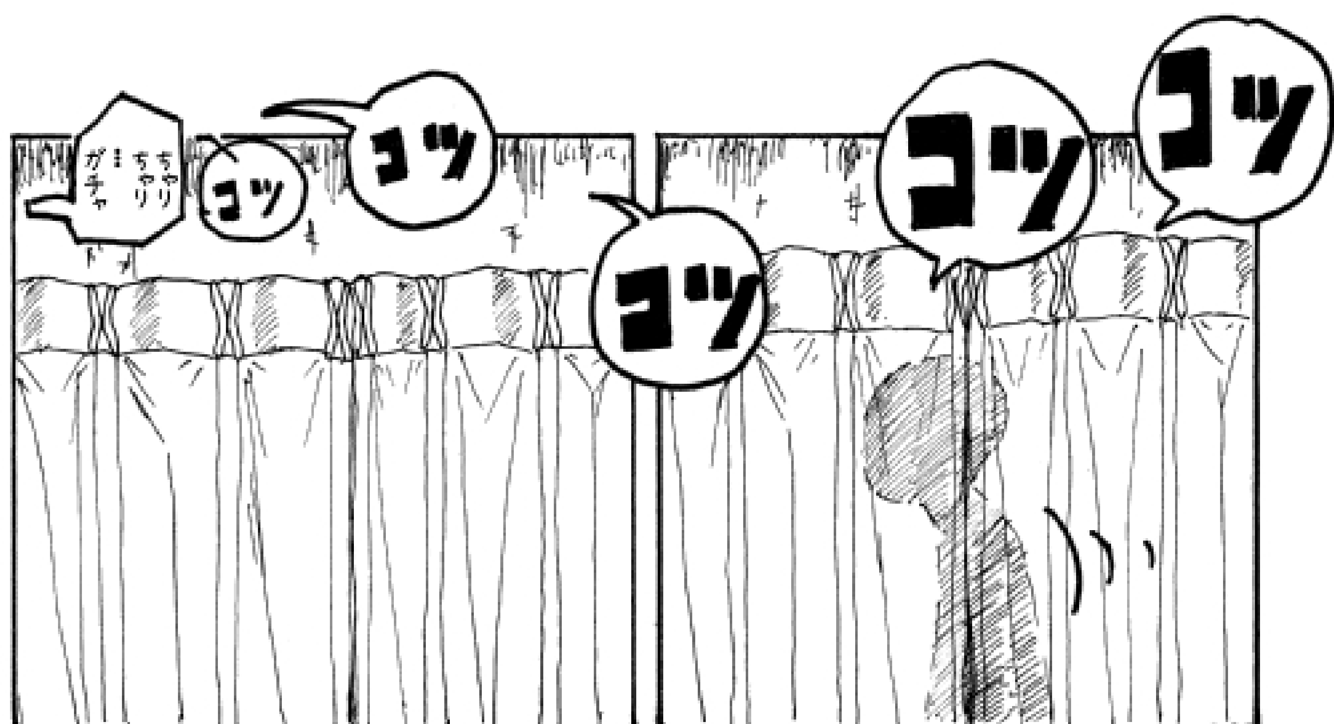

!?
ばっ
あま姉の突然の奇声に、僕は驚いた。
あっ

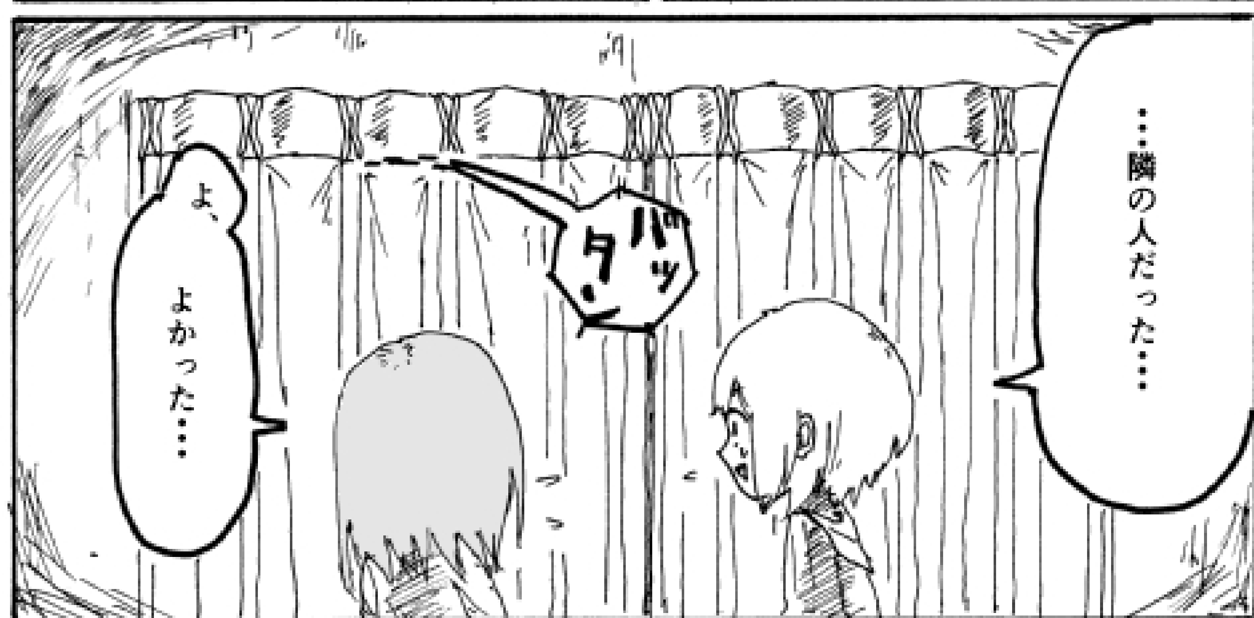

ゴ、ゴメンね、怖がんなくてもいいよ・・・
えーと、
女の人は、おっぱいをずっと触られてるとね気持ちよくなることがあるってだけ・・・

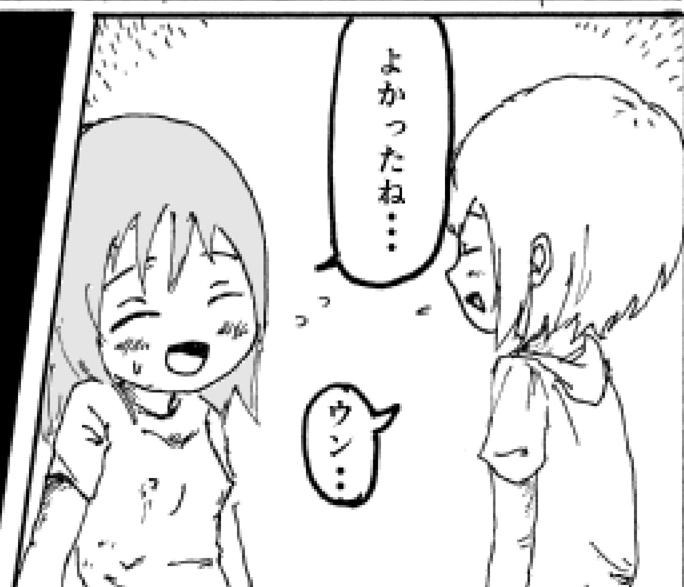

あ、いや、それに何かここ二人だけでヘンな安心感あるし・・・
ぼーっとしてたっていうか
と、とにかく
悪いことじゃないんだ、と安心したが何となくバツが悪そうにするあま姉に引っかかるものを感じた。
・・・
思う存分触れてよかったじゃない、これで終
コツ



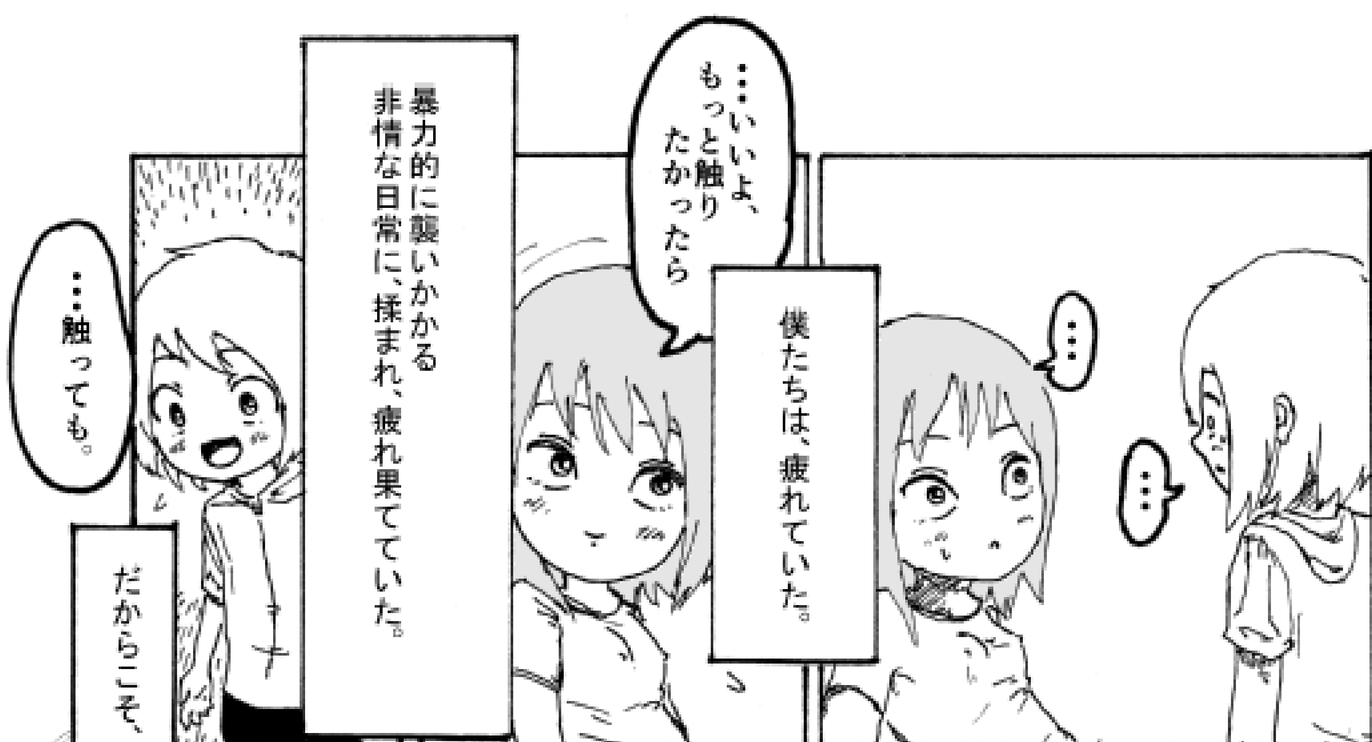
コッ
コッ
コッ
コッ
コッ
コッ
!
足音・・・
誰かこの階に来たね。
おばさん・・・帰ってきたのかな?
コッ
コッ
コッ
コッ
コッ
近づいてくるね。
コッ




何が「よかった」んだろう?




たった一時の偶然から出来上がった、二人だけの脆く儚い非日常を、壊したくなかった。

ぬるい空気。

照りつける日差しから、カーテンを越したやわらかい光。

わずかに聞こえる虫と鳥と葉ずれのBGM

静かで、おだやかな時間の流れは

ふに

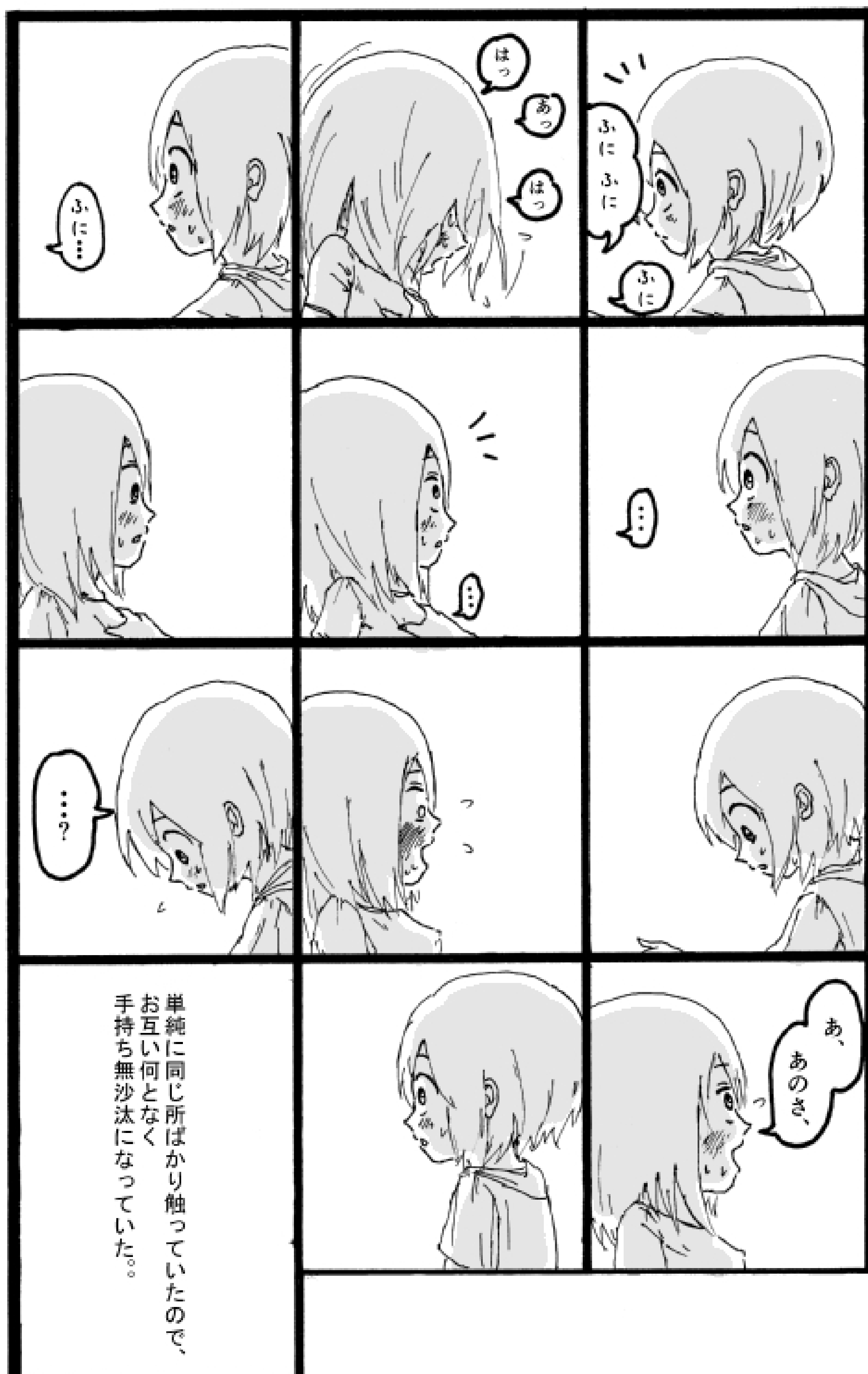
ふに

ふに

心地よい背徳感を運び、




二人だけの、小さな幸せを彩った。


ふにふに
ふに
はっ
あっ
はっ
ふに…
…
…
…?
あ、あのさ、
単純に同じ所ばかり触っていたので、
お互い何となく
手持ち無沙汰になっていた。

女の子のお股ってさ・・・
お風呂とか入れてあげてるかもしれないけど、
その、
妹さんのとは結構違うものなんだよ。

それは、単純に好奇心だった。

えっ。

ただ、何となく

頭が沸くような、融けるような

・・・

妙な高揚感があった。

ゆう君のも、見せてよね、けっこー

私も恥ずかしいし・・・

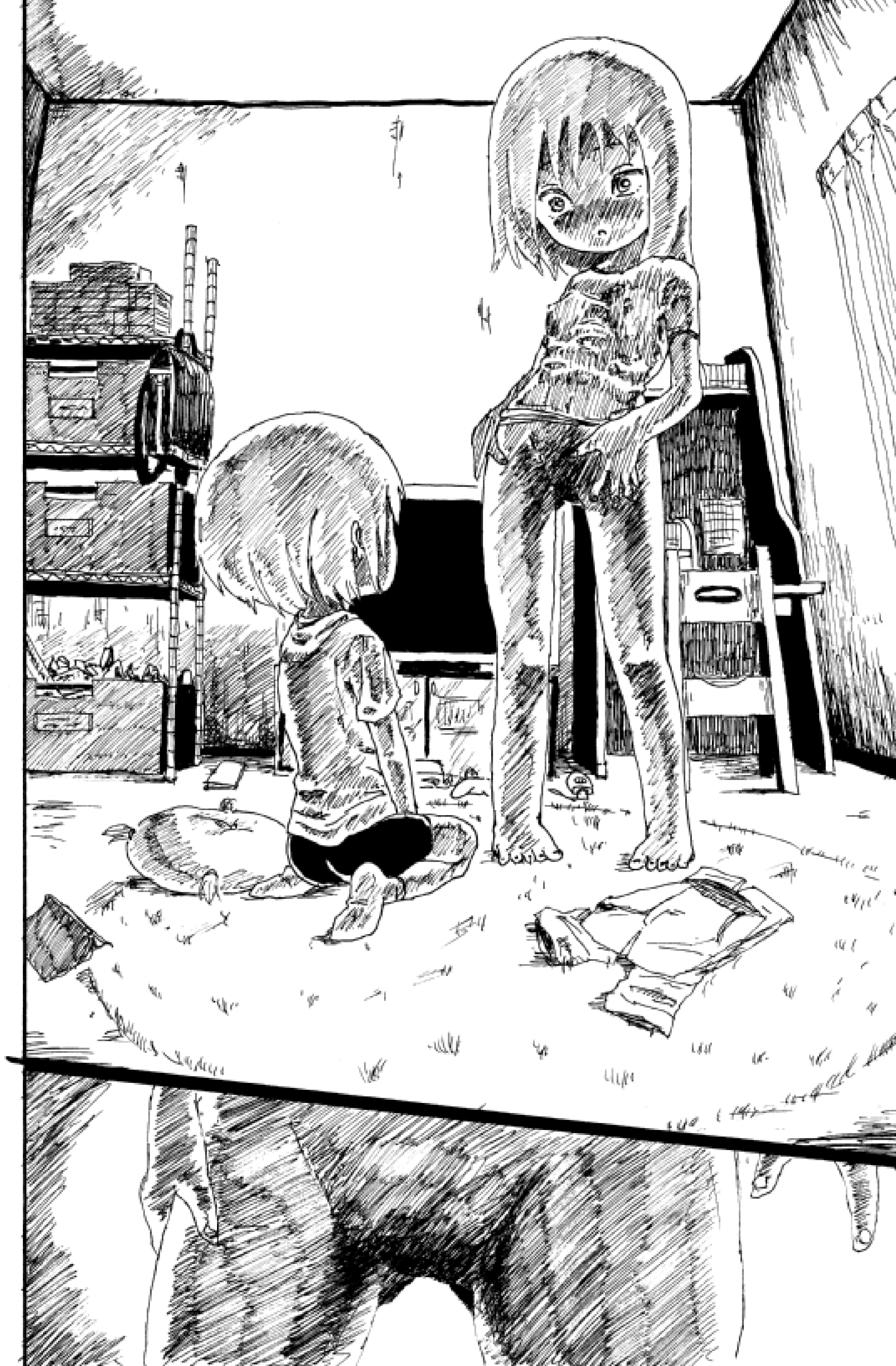
それは、とても恥ずかしかったが

ハッキリと拒否できなかった。

すっ

今から目の前で行われる出来事に

僕は、グラグラと煮えるような興奮を・・・



日陰でよく見えないとか、






そんなことなんかより



僕の頭は、好奇心でいっぱいだった。

今なら、外に人が来ただけでも



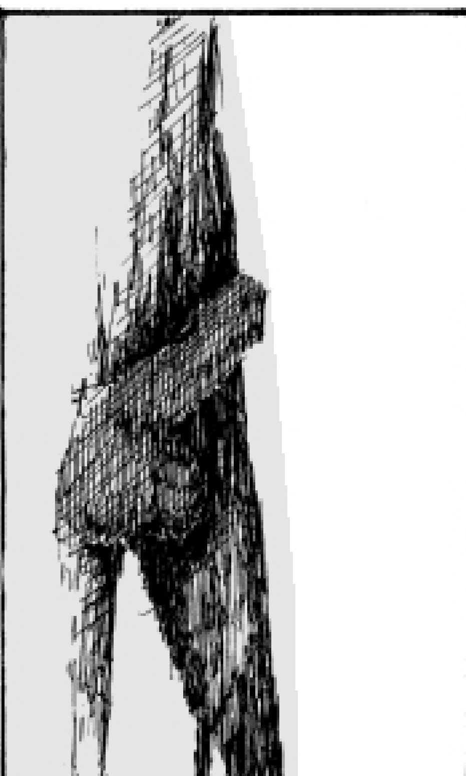

手持ち無沙汰になっただけでも




崩れてしまいそうな、脆く儚い非日常の中



僕は、進み続けるしかないと思った。





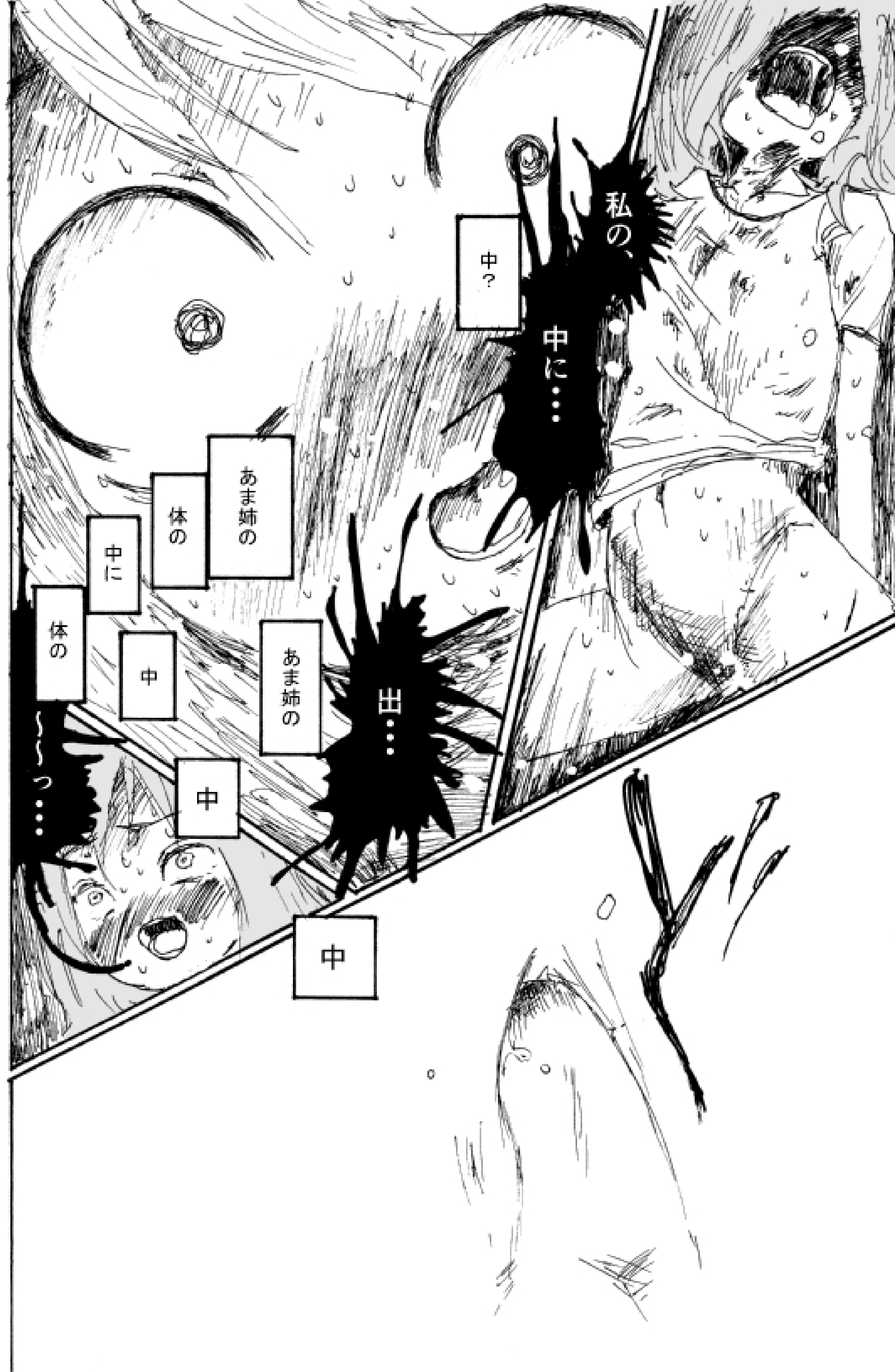




ぬちょ
ぬちょ　ぬちょ
ぬちょ
にぎ・・・
にぎ
にぎ
あ、あのさ
にぎ
これって、
女の子のお股に入れるものなんだよ・・・
ぬちょ
入れる？
あま姉に・・・
ぬちょ
えっと、
こんな感じでさ・・・
くに・・・



ぬちょっ
はっ
ぬちょ
ぬちょ
ぬちょ
はっ・・・
それは、今まで
全く感じたことのない・・・
ぬちょ
あっ
あ
このまま・・・
は
ぐちょ
ぬちょ
でね・・・
～～～～～っ・・・
異様な興奮。
ぐちょ
ぐちょっ
はっ
ぐちょ
あっ

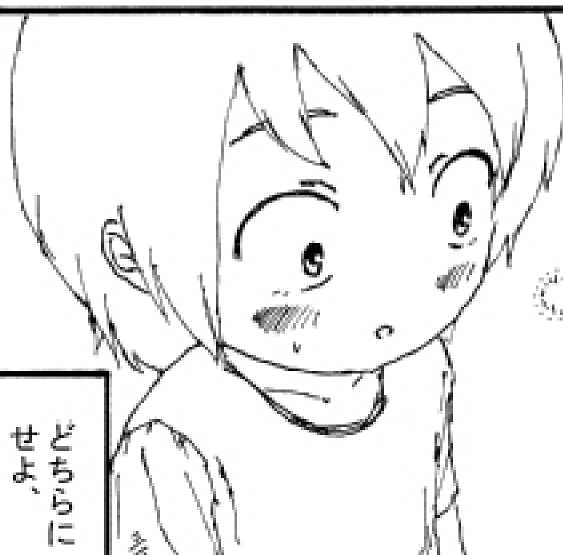

私の、中に・・・
中？
あま姉の
体の
中に
出・・・
あま姉の
中
体の
中
〜〜っ・・・
中
中


はぁ〜〜〜っ・・・


〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜っ…
ビクン
ビクン

こんな
こんな…
こんな
すごい
こと
が…
あっていいのだろうか？
………
これが、
セックスって言うの…
あま姉が
…近い。
けっこー…疲…れ…
僕は、
すー…
後にも先にも
ぬろっ
この世界に、セックスより気持ちいいことはないだろうと確信した。


いじめは、
ほとんど苦ではなくなった。
僕への悪評やちょっかいは、
まるで対岸の火事を
見つめるような気持ちだった。


余裕ができたというより、
心が浮ついていた。
…
どちらにせよ、


帰ったらあま姉がいて、
セックスができる。
それを考えているだけで、
一日の全てを許し、
忘れることができた。

それは、あま姉も
同じようだった。

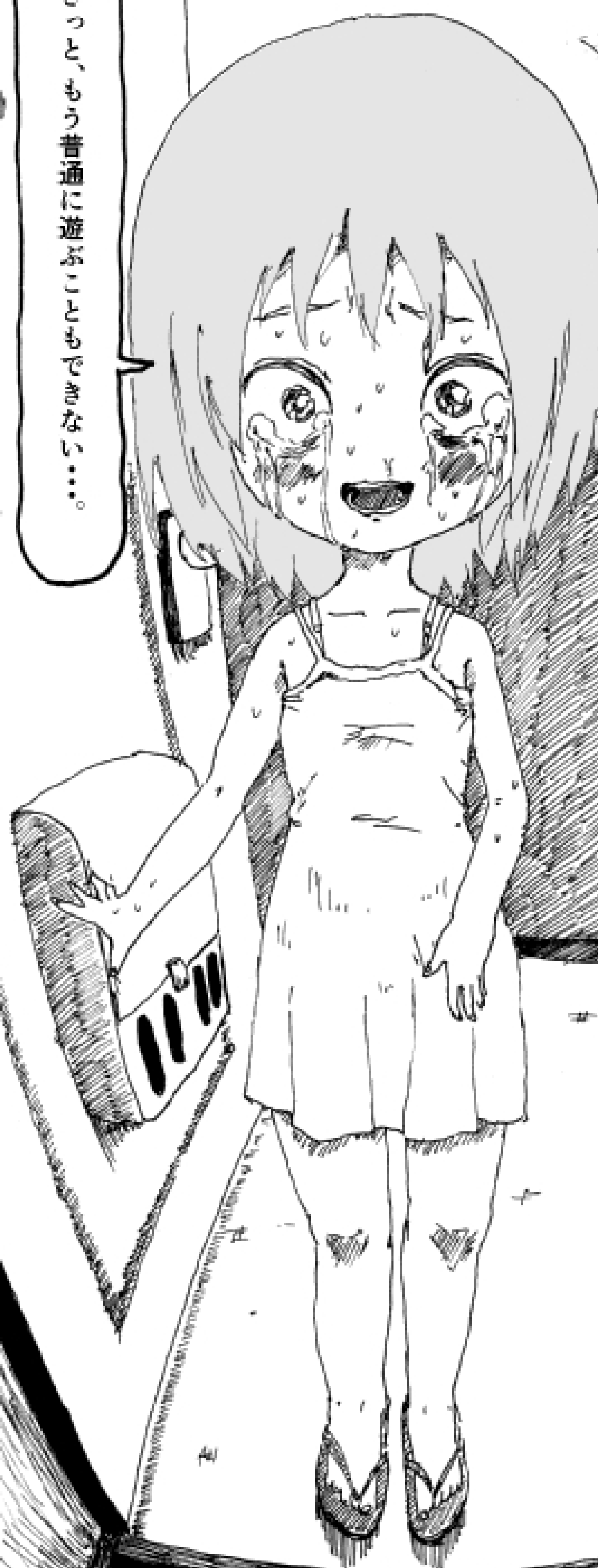
「世話」の日や、「生理」の日、
香穂の面倒を見る日、
などなどを除けば

僕らは、いつも声を殺して
セックスをした。

あま姉も、少し
おめかしをしてくるように
なっていた。

セックスは、その日の全てを
忘れるための儀式だった。

どろ…


そして、その日は突然やってきた。
ごめん･･･私、もう ゆう君とセックスできないの。
きっと、もう普通に遊ぶこともできない･･･。
理由は聞かないで･･･ ゆう君のこと、困らせたくないの。
理由なんてどうでもよかった。

それじゃ、またっ・・・

セックスができなくなる。
セックスができなくなった。
苦しい毎日をまた過ごすことになる。
一日を、許して忘れることができなくなった。

僕は、セックスができなくなるのを
何よりも怖れるようになってしまっていた。
セックスをしなければ。　どうやって？　誰と？
抱き合って、つながり合っていたい。それしか考えられない。
僕は・・　完全に、

セックスから抜け出せなくなっていた。

つづく

あ

あっ

こつ

こつ

こつ

こつ

カチ

カチ

カチ

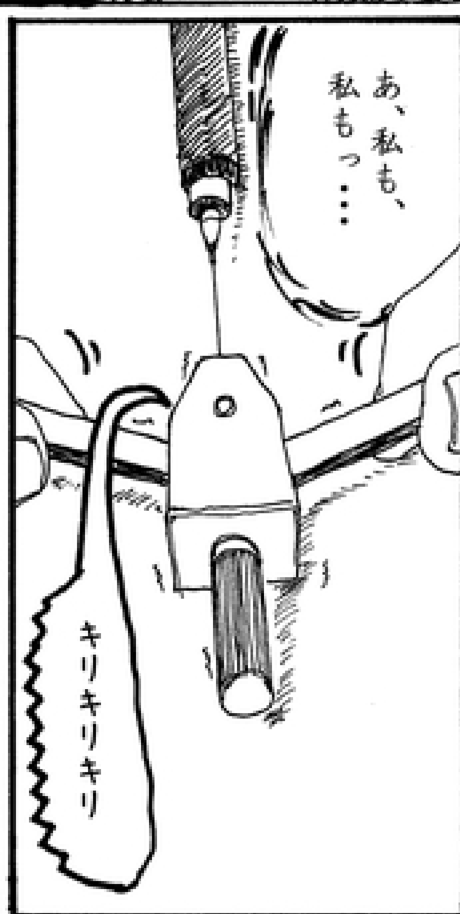
はっ

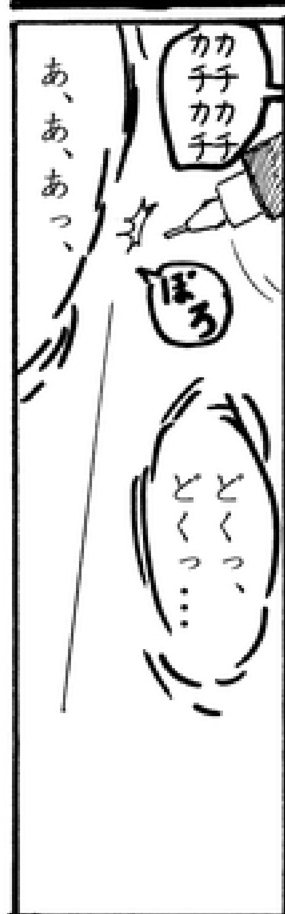
そこ、気持ちい…

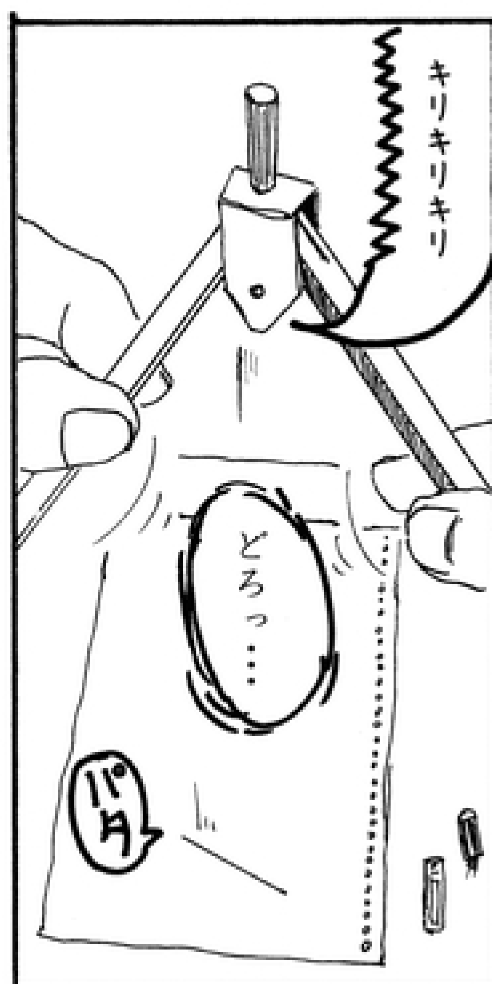
B 0.5

MONO

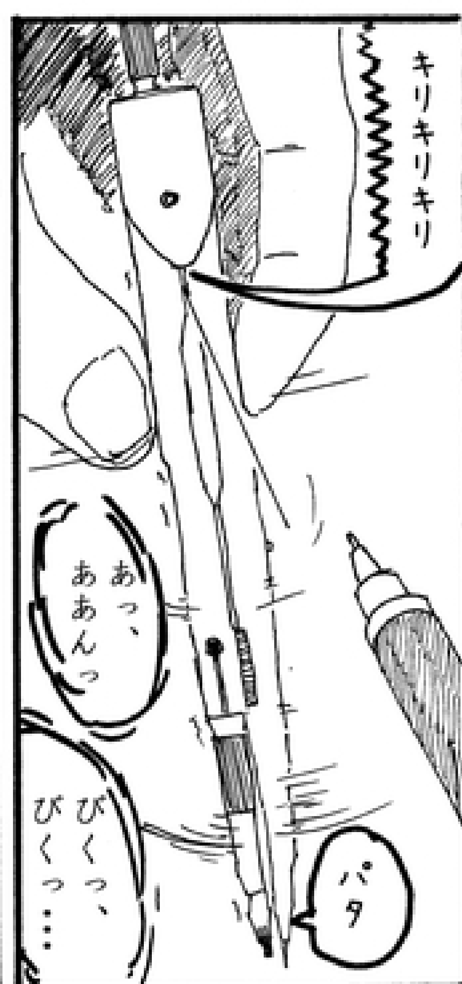



キリキリキリ
どろっ‥‥
パタ


びくっ‥‥
‥‥‥‥‥‥


キリキリキリ
あっ、あああんっ
びくっ、びくっ‥‥
パタ


‥‥こぼれちゃったね‥‥。ぽた、ぽた‥‥。


あ、床に‥‥
ずさー

「おうい、がーー……　んの、
え……　いゆ……　う　…よ。
……　お……
おまえみ……　たいなえ……
……　らぶつ、をおれはひ……
……　き　よ、うなやり……、
……　……ほ……
………　……」

やり方（かた）

ぼた…

ぼた…

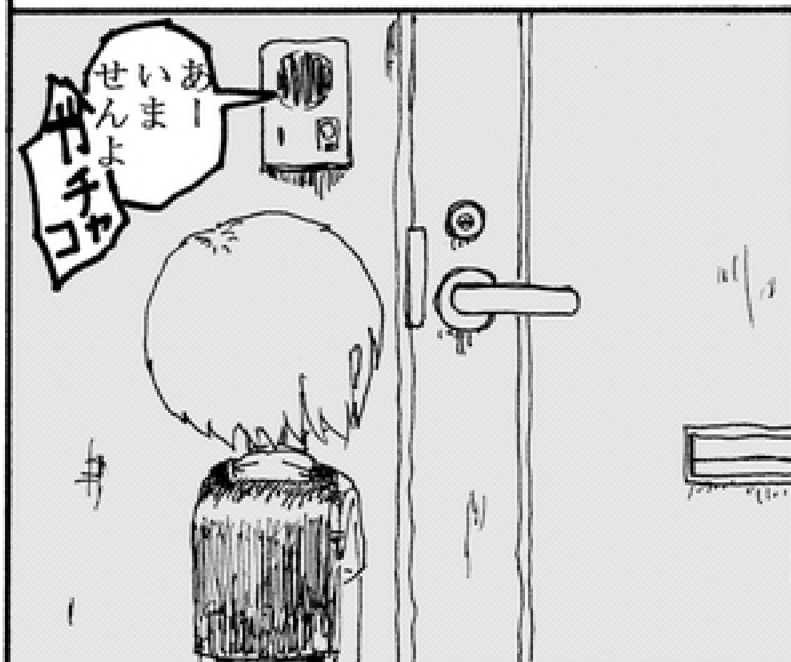
「……やり、かーたーで
……やっつけたか、
あな……いぞ。なあお、
い……
…

今年（ことし）

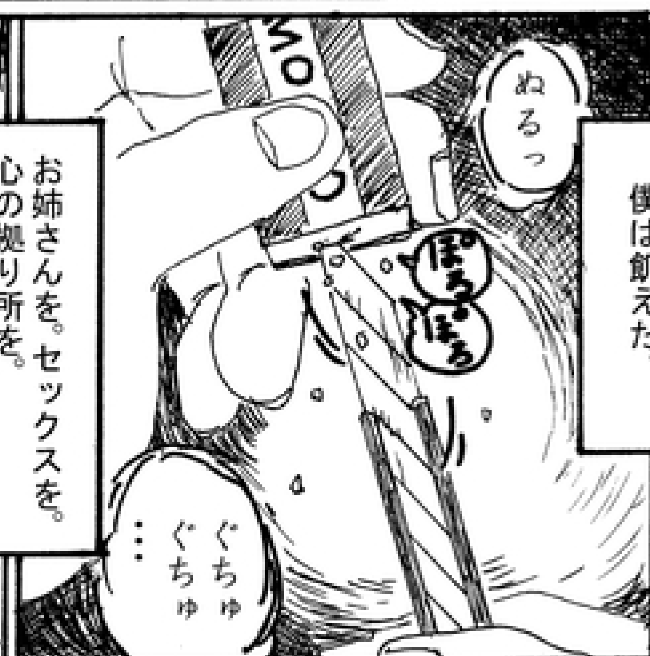
今年（ことし）の…冬も、なか……
まをつれて、…ぬーー
まーちーへ、に、
…やってこいーよ！」




椋鳩十「大造じいさんとガン」（1988）

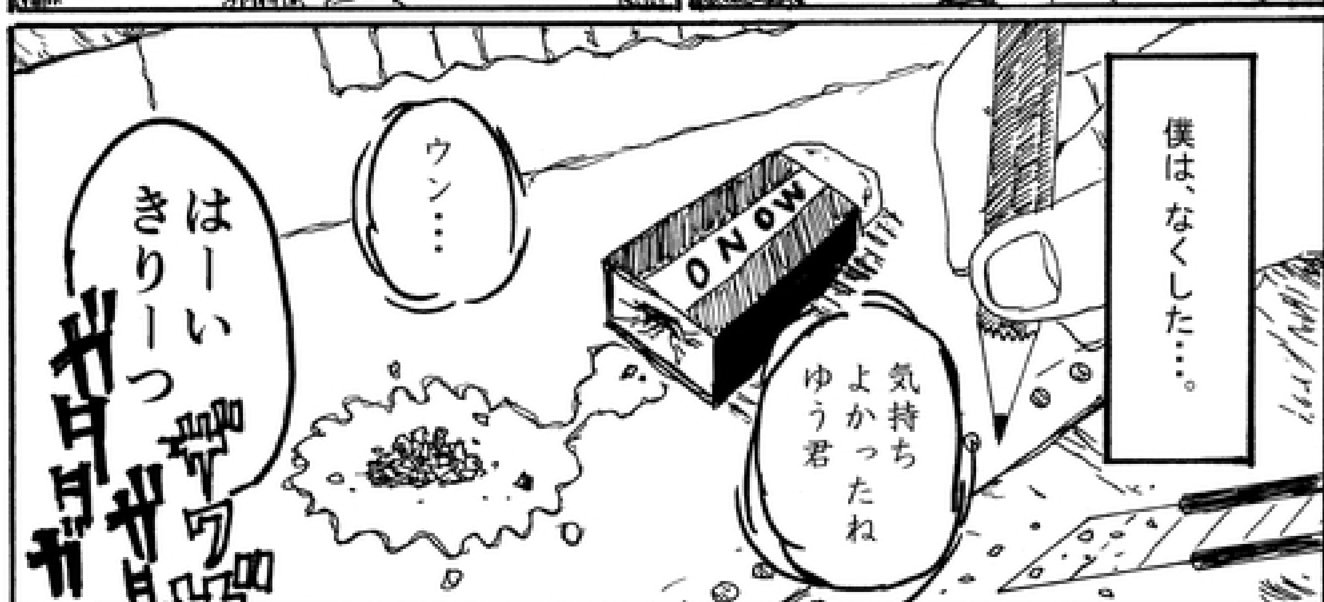



しわがれた声の時もあれば、だるそうな男の人の時もあった。
何にせよ、今まで通りあま姉と会うことはもうできないのだろう。









スッ
きょーつけぇ。
ガタタ
れーい。
サッ
サッ
じゃら
あ～り～が～と～お
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
僕は、

授業の終わる瞬間が大嫌いだ。

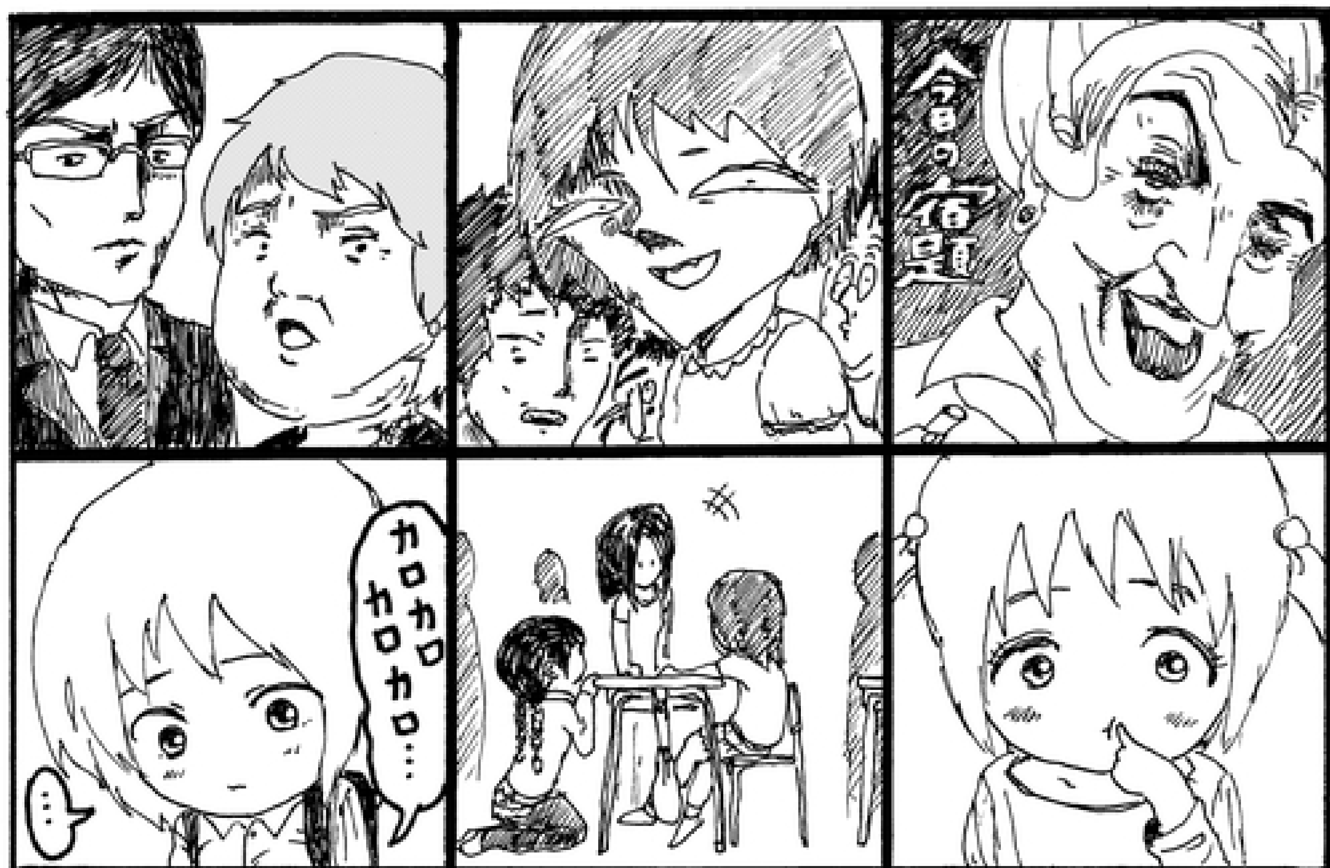
檻の中にいたクソガキどもが、解放され、興奮し、たちまち元気になって…

これから、誰がその底なしの熱量で僕をおもちゃにしにくるんだろう、と冷や汗が止まらなくなるからだ。

オーイ
あつまれ～
キャア～
返せよ
オオオイ!!
フゥワァアァア～
オオオオ
便所いこお
ちょっときてこっち
オオオイイイヤヤヤァァァ
うおーーーーい
鶴川!!!
こっちで、
ドキ

一緒に
遊ぼうぜー!!!
ガッ
ガッ
ほーーーーれ、

こちょこちょ
こちょこちょ
こちょこちょ
こちょこちょ
こちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょ
こちょ
こちょ
こちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
こちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょこちょ
ふっ
ふっ
う－－－－
もっとやってやろうぜ
あはははあははは
あはははははは
ふっ
こいつ笑ってるぜ
嬉しいんだー!!!
あま姉!あま姉!!
あま姉!!!あま姉!!!!




先生は、テキトーなオバサンだ。
クラスメイトは、おもちゃ扱いか
興味も何もないかだ。

コン

カロカロ カロカロカロ…

親もうっとうしい。
妹もきらいだ。
僕は…

カロカロ カロカロ カロカロ…

ちゃっぽん

…

代わりのお姉さんが
ほしかった。

でも、そんな人はいない。

ゴロン

ガロッガロッ

そんな話ができる友だちもいない。

ゴン

ガロッガロッガロッ

この、行き場のない心の渇きをどうすればいいのだろう。

カッ…ゴロンゴロン…

ザザザザ

ザシュ

ゴッ

もう当分、あの幸せは戻らないのだろうか。

いやだ…。

……

セックスしてえーーっ

!?

…

地元の…

中学生

お前らは、本当に
セックスがしたいのか？

セックスがどれだけすごい
ものなのか、
わかってるのか？

カァーー…
カァーー…

ああいう…馬鹿な中学生には
なりたくない。

ガチャ

ただいまー

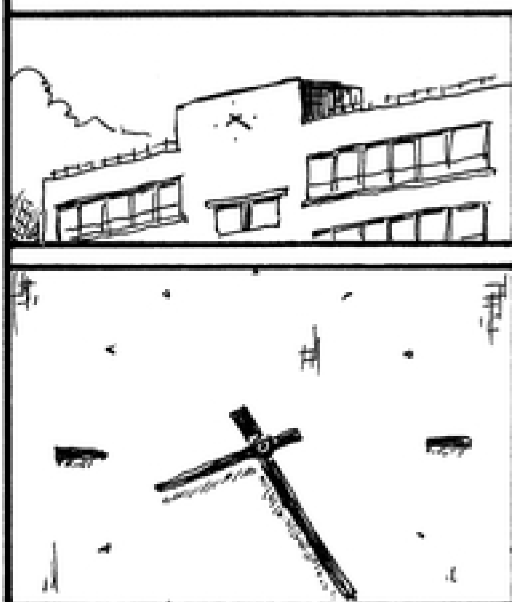
バタム

テテテ

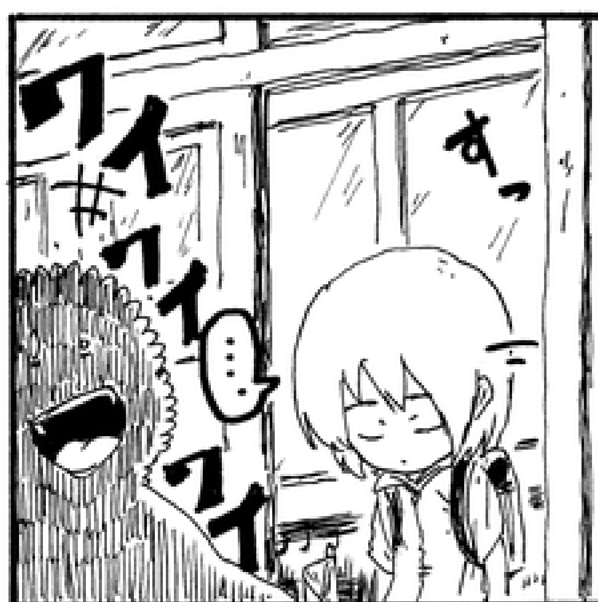
やさしいお姉ちゃん、
今日もこないのー？
来ねえよっ、
うるせえなっ!!!





遅刻寸前に登校すると、
いじめられる時間が減って良い…。





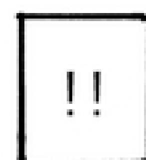
















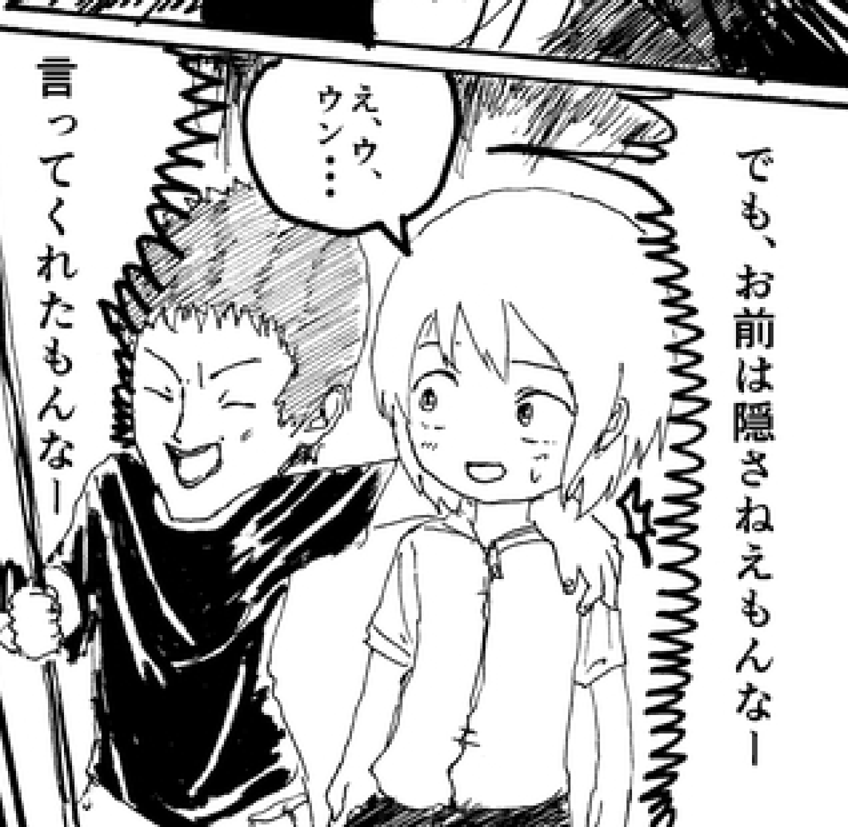
あー、
たりー、クソたりい
さっ
さっ
こんなしょぼくれた面子で掃除なんてよー
たりぃんだよーっ
カコン
てめーも何一緒になってサボってんだよ
とっとと俺の代わりにマジメにやれよっ
とにかく、今の状況が変わるための糸口でも見つかれば、と思った。
ゴッ
ゴッ
あの、
セ、セックスって何かな?
・・・あ?


テメ
ぶっコイてんじゃねーぞ?
あ?
わしっ


知ってんだろ?テメーだってよ
この歳になりゃあ
クラスメートだって皆知ってるハズなんだよ


出したり！入れたり！
出したり入れたりよー!!
ドッ
ドッ
い、いててっう、うん…!?


みんな正直になれっつんだよーっ
ビッ
ビッ
恥ずかしがりやがってよーっ

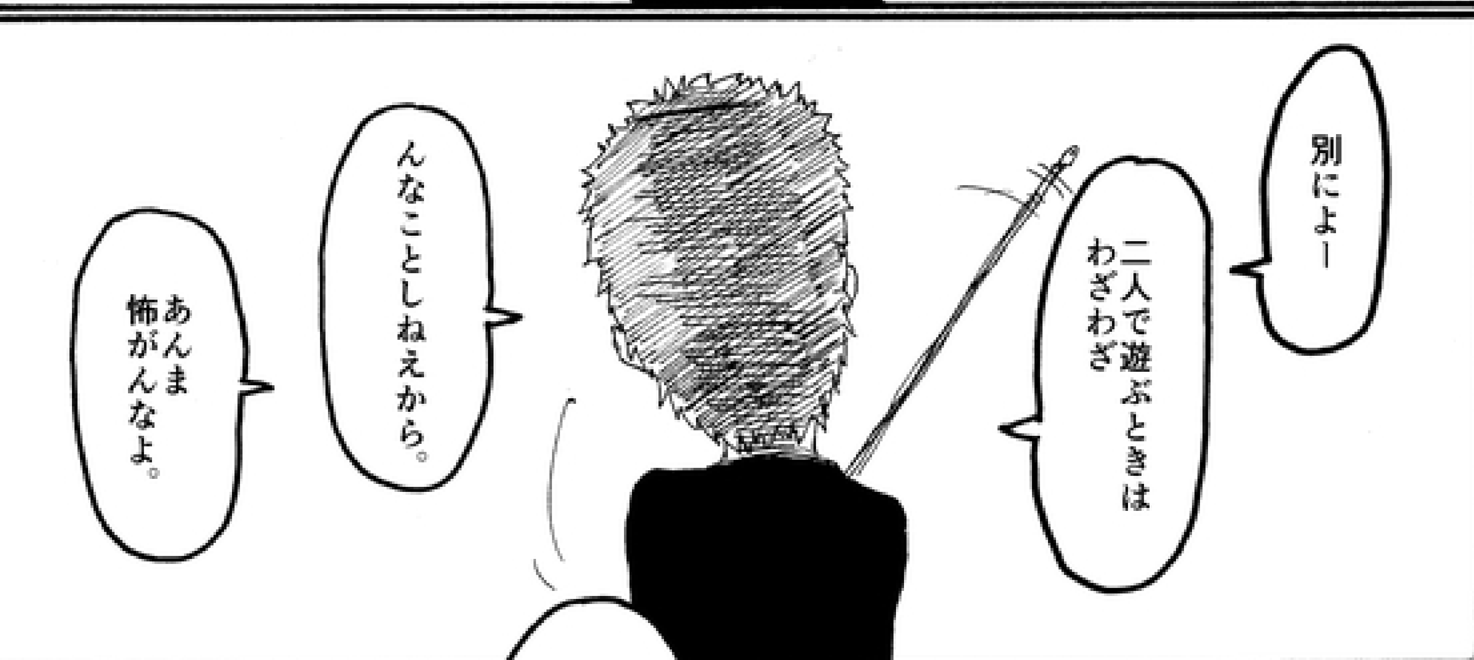

でも、お前は隠さねえもんなー
え、ウ、ウン…
言ってくれたもんなー
あはあは
あははは


って、そーいやそろそろ先公来そうだな
演技すっか演技!!


オメーもやっとけよ
・・・


黒松君はさ・・・
なんで僕のこと
いじめるの？


ん？
さっ
さっ
あー・・・？
みんなやってる
からかな？
おもしれーし。

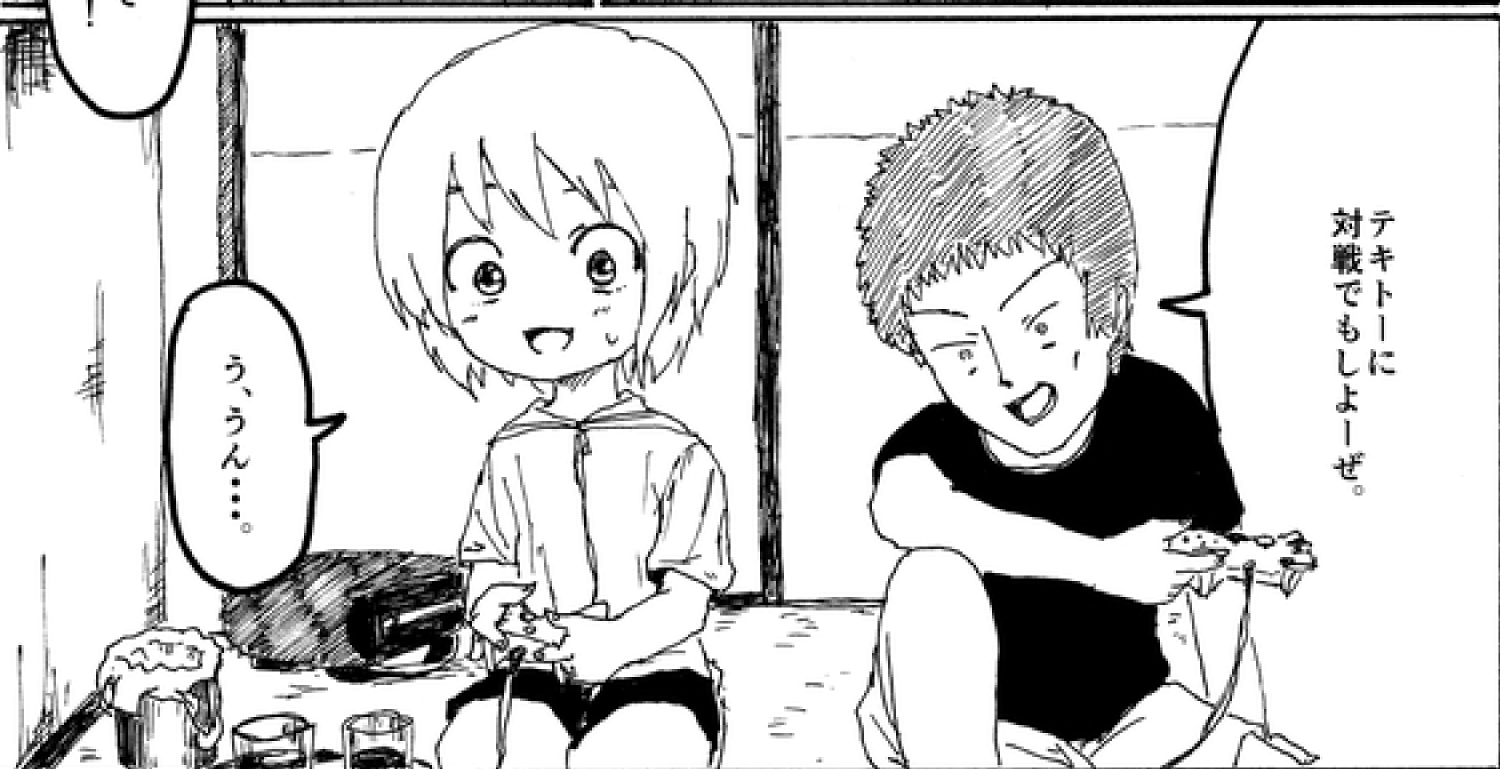

別によー
二人で遊ぶときは
わざわざ
んなことしねえから。
あんま
怖がんなよ。


ホレ、
とっとと
演技しろ
さっ
さっ
あ
うん・・・




ぐい
今から遊ぼーぜ。
え？

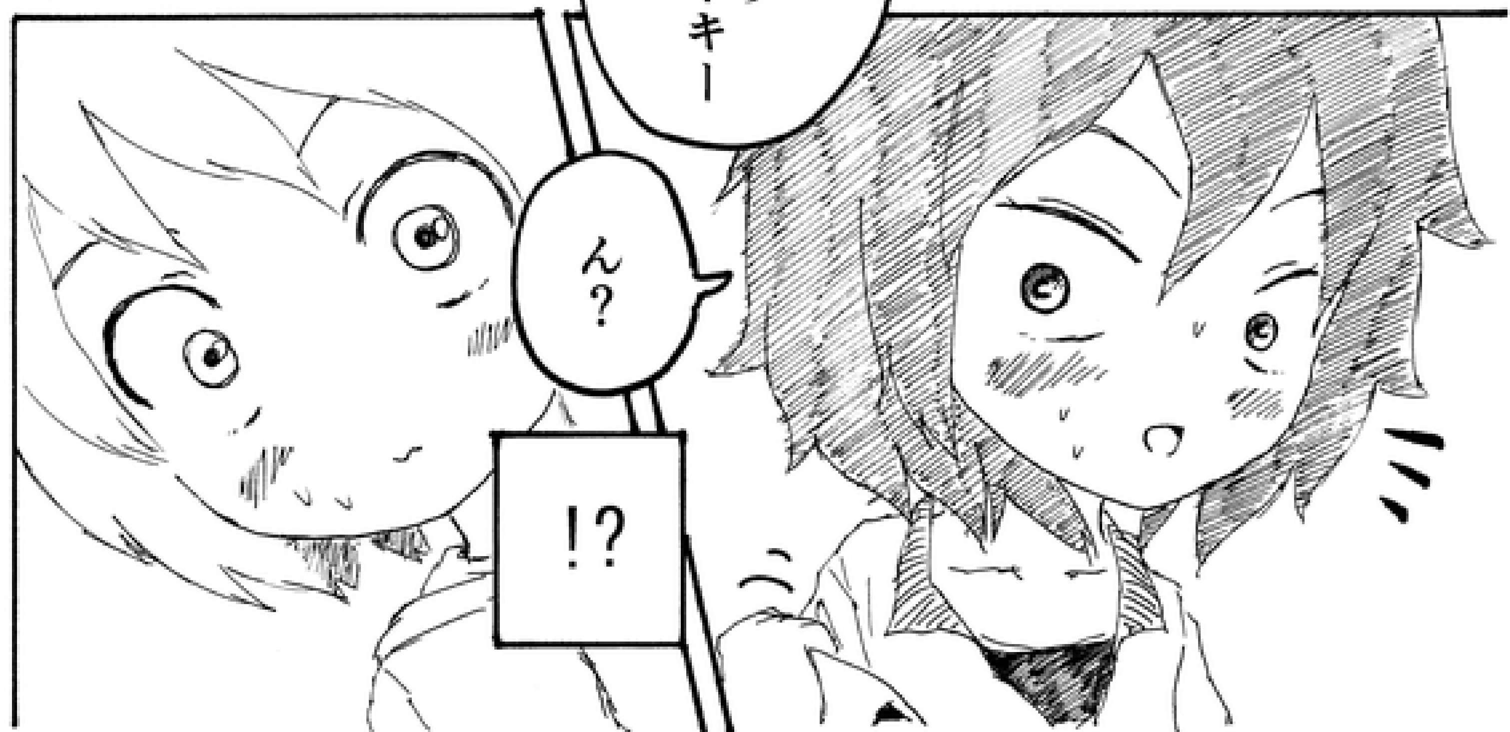

白梅荘
今日遊べるヤツ
誰もいなくてよー
あ　麦茶でいーー？
TV
いやあーー、ヒマで
困ってたんだよな！


テキトーに
対戦でもしよーぜ。
う、うん…。




ドタ
ドタ
ドタ

ふ〜〜っあちいな！ただいま！
バン
おー
おかえりクソアネキー



は、は、はじめまして・・・
あ
はじめましてー
って
麦茶あんじゃん！
ちょっと飲ませろ！
とす
ハッ
ハッ
ハア!?
!!?
ぐい
自分でつげよクソアネキ
オイ
ハァ
!!??
ハァ
ハァ
ガッ

たん
僕の飲んでいたコップ…
たん
ごっ
ごっ
オーイーーーッ!?
ごっ
ごっ
もーおお
とっとと失せろよ
クソ!!!
あー生き返っ……
うっわ
汚えーな!!
死ねよクソガキが
じゃ、ねーちゃん
汗流しに
風呂入っから
邪魔すんなよ
あーっくせー
くせっ!!くっせ!!
ガッ
ガッ
…
汚えーんだよ
やめろやめろ
あーーーーー
げし
げし

ったくよー・・・
あ、そうだっ
アネキ!!こいつセックスしたいんだってよ
セックス!!セックス!!!
してやればー!?
ちょっ
何言って、そんなっ
あっはっはっはっは
あ？
やっちゃえよやっちゃえ!!
!!? え!!!? え!!!!??


お互い発情期のバカ猿相手は
大変だな！
てめーはもう死んどけ・・・

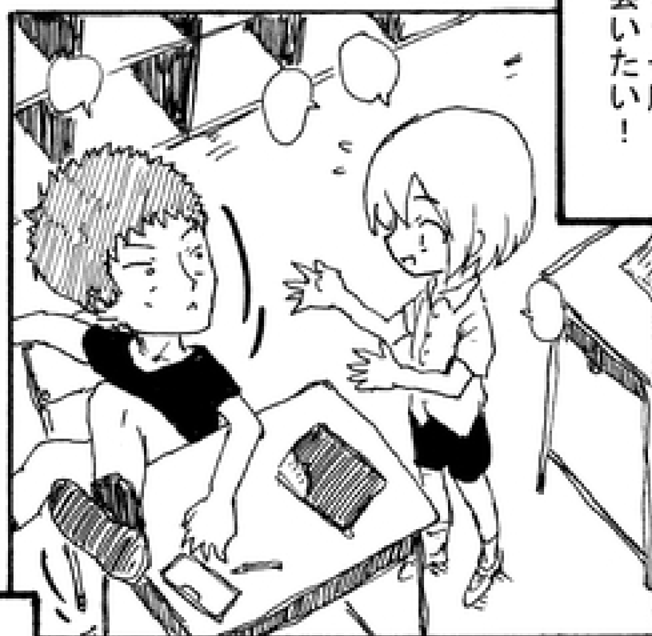

ピシャ


はーーーーあ。
続きやろうぜー。
しゅ～…
・・・

姉・・・
心地良い
汗のニオイ
ドキ
ドキ
火照った身体の
温度
間近で感じる
荒い息遣い
ドキ
ドキ
姉・・・
ドキ
キメ細やかで健康な肌
ドキ
ドキ
姉・・・

こう・・・
セックスとか知ってそうな
ドキ
大人なムード
ドキ
間接キス・・・
ドキ
姉・・・
ドキ
ドキ
ドキ
・・・
柔らかそうな
唇だった・・・
ドキ
ドキ
そして何よりも・・・
ドキ

姉・・・
僕のことは、
殴ったり、
イジメたりしなさそう・・・
甘えてもいいような、
僕との、そういう関係
ああ、


もう一度
会いたい！

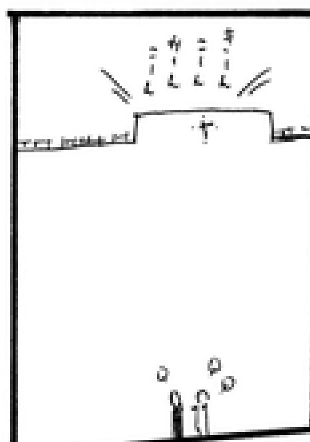



職員室


ふたりで
遊びたい！




せめて
話せるだけでも…


きーん
こーん
かーん
こーん



鶴川ってさ

気持ちわりいな。

えっ？

別に俺さ

おもしれーからみんなの前で
セックスセックス言ってるだけでよ

鶴川みたく、実際どうしたいとか
ずっと一人で想像してるーみたいな
ヤツって

意味分かんねっつか
理解できねえし。

あと別に俺、お前と話してても特別面白いわけじゃねーし。
運動できるヤツらとみんなで馬鹿やってた方がおもしれーし。
ヒマだったら遊んでやってもいいけどさあ
悪いけど、
あんま話しかけられても困るわ。
じゃ。
あ、
黒松君…
お姉さんっていつも何時頃に家出るの!?
知らねー
早えーし、遅えーよ…
…

5:30 a.m.

あんたどうしたの
こんな朝早く…

早朝ランニング
だよ…

ガチャ

バタム





あれ？
この間の
くしゅ
セックス君じゃん！
!!!!
あ、安直な呼び名・・・！
いっぱいセックスしてるかー!?
わしゃ
わしゃ
お、おはよございます・・・
わしっ
し、してませんっ
あっはっはっは!! そりゃそうだ！
でもよー、男ならよー

常にシャキッと元気にいっとけよなー！

ドオン

!!!!!!!!

ぎゃ

あっはっは、じゃなっ・・・

お、

お姉さんっ・・・

うわっ!!


何だあ？
気持ちわりい
ガキだなあ・・・。




気持ち悪い？
じゃなー
そうか・・・


これは、
もう、
気持ち悪くて、
…
表にも出しては
いけない気持ちなんだ。
でも


代わりの
お姉さん、
どころか
人に打ち明ける所から
こんなに大変で、
難しいなんて。
僕は


僕はもう…
本当に、もう
どうしようも…

あ

さっき

握られたのに
反応して…

すっ

…

…この

行き場のない
感情を…

にぎ

にぎ

行き場のない
感情を

はっ

は

今、全て
乗せられそうな…

全て…!!




はっ
止まらない・・・
はあっ
びゅっ
びゅっ
あっ
止まらないよおっ・・・
ぺちゃ・・・
びゅ
びゅっ
はあああああっ・・・
ぬちゃ
ぬろ
ぬる・・・

僕は




オナニーを覚えた。

それから、僕は抜いた。抜いて、抜いて、抜きまくった。































一日に何度も。十回。二十回も。泣きながら。部屋で、トイレで、草むらで・・・

二ヶ月ほど
経っただろうか・・・。

僕は、

今日のオナニーグラフ

涙も、精子も、心も

枯れ果てていた。

あま姉の家の前で、
何日か待ち伏せてみた
ことがある。

しかし

あま姉の家は驚くほど外出が少なく、
老けたおばさんか、弟らしき人を
たまに見かけるだけだった。

ガサ

あま姉は、いない。


驚くことがもう一つ。
僕へのイジメが減っている。
ざわ
ざわ
何をしても、僕の表情が変わらなくなったこと、
そして少しでもイジられると
一瞬で泣き出すようになったことで
誰もが不気味がり、面倒がり、
僕を避けるようになったのだ。


無視は、何か
ちょっかいを出されるより
よほど嬉しいことだった。
…
他の皆も、
黒松君も
何の問題もなく、楽しそうに
日々を過ごしていた。


ほが
ほが
ほが
ほが
ねえ、あんた
最近大丈夫？


もぐ
もぐ
もぐ
…


疲れてそうっていうか、
見るからに元気なさそうだけど…


表に出しちゃいけない。
平気だよ、うっせーなぁ…
…
もぐ


ごちそーさま。
……。
カチャ


トトト…
ガチャバタン
・・・


ウーン。
ほっときすぎたかなあ。


さっ
しーん


あ、お母さん、あのね・・・
ずっと前からね、やさしいお姉ちゃん来てないみたいなの・・・
あら、
あまねちゃんのこと？
そんなに来てくれてたっけ？


ウン・・・
お兄ちゃんだけお留守番の時はね、いつもお姉ちゃんが来て、うちで遊んでたの。
その日はね、お兄ちゃん機嫌いいからね、
香穂、見てなくてもわかるの。
でもね、ずっと前からね・・・
お兄ちゃん、お留守番のあとも怖いからね、
もう、お姉ちゃんずっと来てないんだなって、思ったの・・・。
ぱく
へえ・・・。

鶴川君、ちょっと

あんた最近
大丈夫なわけ？
ずっとひとりで
いるじゃないの。

ギギギギ…

いえ…
平気です、先生
何もないです…。

今までずっと、
お友だちと
仲良く遊んでた
じゃないの…。

…。

…私のクラスでさあ、
最近はやりの自殺？とか
出ちゃったら
困るのよねえ…。

あんま心配
かけさせないで
くれるかしらねえ。

…いえ。




はーーーーい、今日の国語は自由作文ですー。

二時限ぶん使うから、普段感じてること、観察したこと、思ったこと自由に書いてくださーーい。

将来の夢とか、

えーーーーー

はあーー!? 浮かばねえーよ

めんどーい

好きな食べ物などでもいいですよー。

かったりいなああ

どよ

どよ

ホラ、静かに！

マジメに書く人の迷惑にはならないように！

こういう授業だと先生ラクでいいわー。

ざわ

ざわ

ざわ

ハイ、始め！

紙が足りない人は

取りに来てくださいね―

僕はお姉さんがほしい　鶴川ゆ
僕は、やさしいお姉さんがほしい
お姉さんがいる友だちは、とてもうら
いと思います。
もしも僕にお姉さんがいたら、一緒に仲
く遊んだり、楽しくおしゃべりをしたいです。
いつも家にいれば、いつでも遊べて楽しそう
です。例えば、一緒にゲームをしたり、二人
でマンガを読みあったり、

自然に出てきた文章だった。

字は丁寧に、先生が読める字を書きましょう・・・







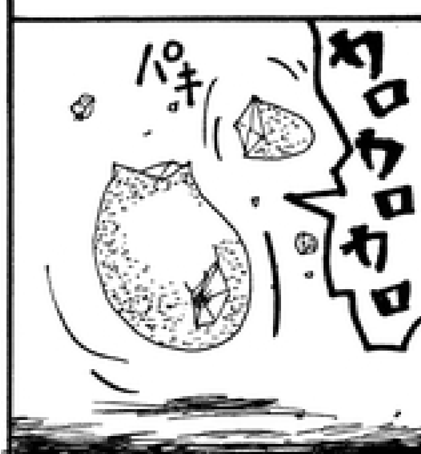



僕がたどり着いた結論は、「忘れる」ことと「考えない」ことだった。

自分でも、みるみる元気がなくなっていくのがわかった。




あま姉のことを、忘れて、考えない。




クラスでのコミュニケーションを忘れて、考えない。

自分の欲望を忘れて、考えない。これからのことも…




忘れて、考えない。




それでも…

満たされない感情は容赦なく溢れ、




どうにもならない日常は容赦なく訪れ、




希望の光なくとも明日の陽は昇り、




思考の道筋は闇夜に閉ざされたまま、

明かず、進まず…




救われず

オガッ…
忘れて、
オ゙オッ
考えない。
ガッ、
ここは地獄だ。
僕は底辺だ。
ヴォッ
もう、持たなかった。
吐いて、その勢いで泣くしかなかった。
オエアアッ…



ア゙オ゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ア゙ッ
いつまで続く?ずっと?
忘れ去りたい。もう何も感じていたくない。
ゼェゼェ
エ゙エ゙エ゙
ゲッ
ゲッヘ
ハァッ
エ゙ッ
カッハ
もう、限界だよ。
心が折れて、ぐじゅぐじゅに腐って、枯れて、朽ちて果ててゆく。
ゼェ
ゼェゼェゼェゼェ
身も、心も、
ボロボロだった。
ウ
ウ


キャハハハ
鶴川君、
帰りの会が終わったら応接室に来なさい
!?
何でですか？
僕、何もしてないですよ…
平気だって言ったじゃ…


気をたし
応接室…それは、みっちりとした説教やキツい指導が行われる、元々はお客様用の個室。
いいから来るのよ、めんどくさいわねえ…
暴れん坊の問題児にしか縁のない部屋だと思っていた…。
…はい

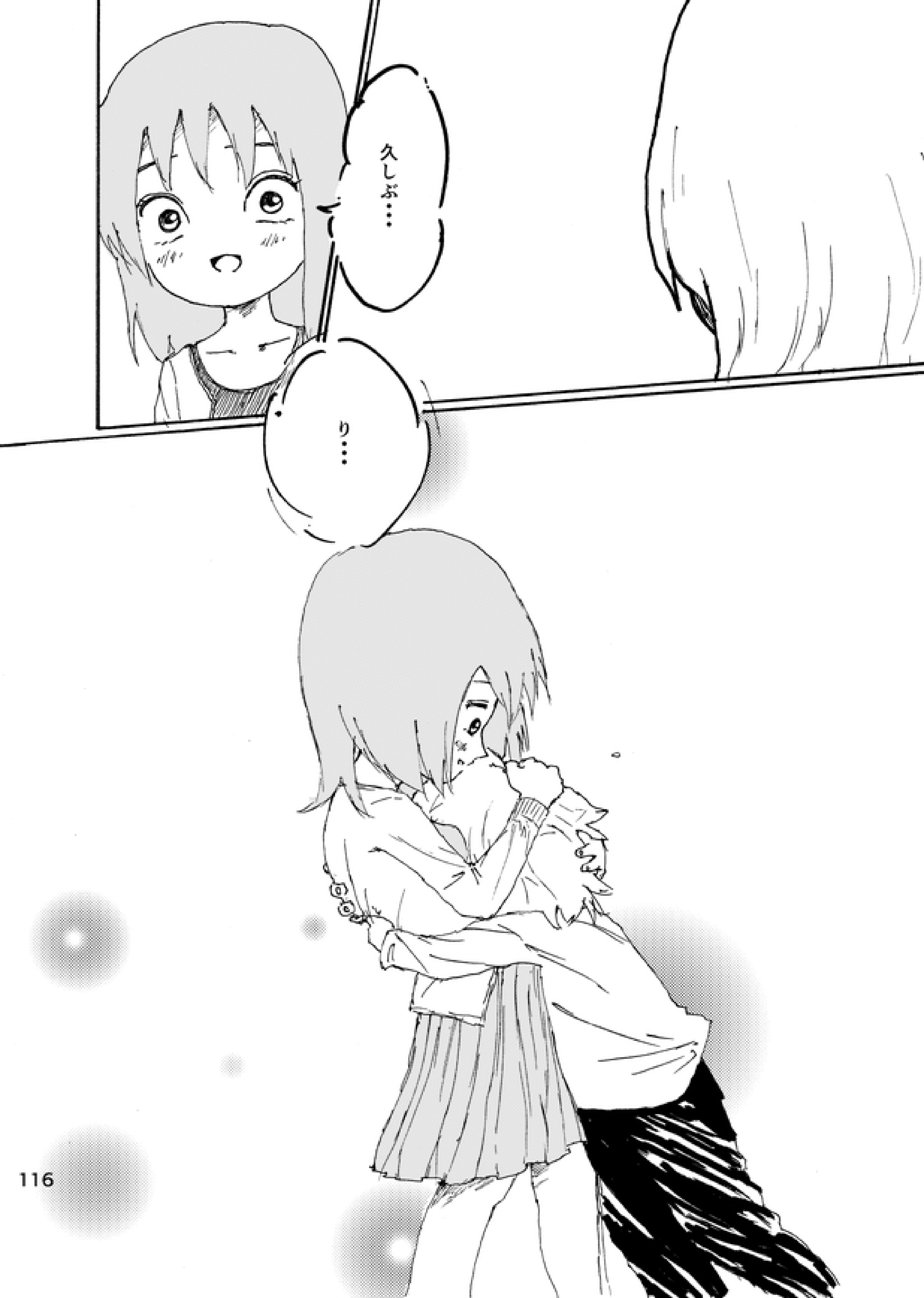

…ったく、
…考えない。
のし
のし
ぺた
ぺた
ぺた



あんたみたいな陰気臭いやつが
自殺だの何だのするんでしょーねえ・・・。
男のくせに
弱っちい・・・
ぺた
ぺた
いい迷惑だよ。
・・・忘れる。
・・・
校内写真コンテスト
のし
のし
のし




応接間
あんた、応接室は初めてよね
ここよ。
・・・
それじゃ・・・
あんたから
入んなさい。
ドアの隙間からは、
・・・ハイ。
涼しく、心地良い冷房の空気が
僅かに漏れていた。
ガラララ


……
久しぶ…
り…

…どこに、行ってたの…？

ごめんね…。

ちゃんと、話すから…。

…。


・・・。
クラスの男子で、
美人の姉がいて、
あんたとちょっとでも
仲良さそうだったのは、
黒松君だけだったのよ。
カチ
あいつからまず、
あんたと何があったのか
少し聞き出してさ・・・


あんたの親にもわざわざ連絡とって、
長々とおしゃべりしてやったらさ、
そこにいる子とあんたに
交友あるって話が出てきて・・・
ピン、ときてさ
すぱ
すぱ
ホラ、この地区は大体みんな同じ
地元の中学進むでしょ。
そこで黒松の姉使ってさあ、
その子の今の居場所やら
色々と調べさせてさあ・・・
もしやと思って
連れてきてみたってワケ。

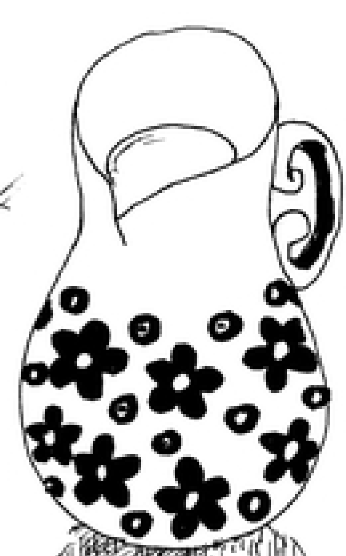

ま・・・その様子じゃ
当たりみたいね。
私の勘って
よく当たるのよねー。
ガララ
しばらく二人で
話してな。
まったく・・・

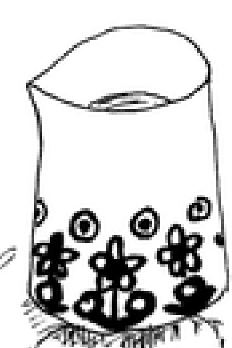
ピシャ

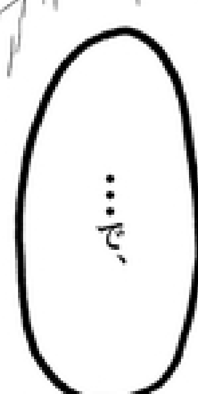
消灯

いい迷惑だよ。












～学園長こだわりの
Ice Coffee（お客様用）～

・産地:マンデリン
・炭火焙煎（三日後）、中挽き
・煎り:シティロースト
・強いコクの先に香る
産地本来の風味。
味わい深い本格派の味。


もともと仲は悪かったんだけど・・・
とうとう親とは大喧嘩になっちゃってさ。
・・・家にもいられなくなって。
学校もだいぶ休んで・・・
ちょっと田舎の方にある、親戚の家にいさせてもらってたの。
・・・でもさ


親子って、意外と単純でさあ・・・。
三ヶ月も経てば、お互いのほとぼりも冷めてて
ちょっと先だけど、家に戻れることになったんだ。


ひっく・・・
うん・・・
ひっく
ひっく

…いろんなことがあったんだよ。

私も、絶望してた。

一生、背負っていかなきゃいけないことも

できちゃったりして。

親戚がね、面白い人でね

私は狭い世界、小さな視野の中に閉じ込められて、苦しんでるって言うの。

ブロロロロ…

そしたらね、

でね、いろんな所に連れて行ってくれた。

ザザー

こんなにキレイな景色があるんだって。

ザザ——…

こんなにステキな場所があるんだって。







運動だけ、勉強だけできる人、学校にも行ってないけどゆかいなことをしてる人、

日なたで、日かげで、

うるさい人も、静かな人も、

みんな、楽しそうに生きていられるんだ、って。

そういう所が
一生かけても回れないくらい
あって、

そういう人が、
一生かけても出会いきれない
くらいいるんだ、って。
言葉にすると、当たり前だけどね。

私は、まだ子どもだから
一人じゃ生きていけないけど・・・

周りに溶け込めなくても、
家に居場所がなくても、
ちゃんと楽しく
生きていけるんだって
知ったらね・・・

ザザー…

自分の心の中に、

いつも、
暖かい光の差し込む場所が
できたような気がしたの。

苦しんでたら、もったいないじゃんって。

・・・

苦しくて、何もできなくなるのって当たり前じゃない。

でもそれって当たり前すぎてツマンナイじゃん、って。あはは・・・

ゆう君、私ね・・・ゆう君に見せたいものが、いっぱいあるんだ。会わせたい人もたくさんいるの。

たくさんステキなもの見て、楽しい人たちと会って、心の中に、いつもキレイにきらめく場所がいくつも、いくつもできたらさ・・・

・・・
脆くて、儚い幸せに頼りきるんじゃなくて、
小さくても、しっかりと輝き続ける希望の光を胸に抱いて、
私も、
ゆう君も、
ずっと楽しく生きていけるんじゃないかって
・・・そう思うんだ。
・・・



・・休みの日とか、時間あるときはさ、
一緒にいろんなとこいこ！
Hなことも、
こつん
たまにになら、したげるよ。
正直なところ、

僕の頭に入ったのは、「家に戻れる」と、「Hなこと」しかなかったけれども

コーヒーおいしかったです

あらそお？校長のシュミよ・・・

黒松姉にもお礼いっときな
結構心配してたわよ、

あま姉は、前と違って

キミラそれぞれ。

飲むの忘れてた・・・

とても生き生きとしていた。

放課後や休日は、足を運べる範囲で色々な所に行った。

ピー

ピー

ピー

ピー

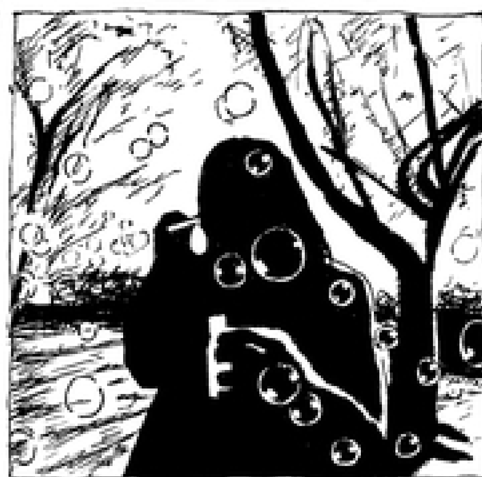
あま姉は、ある日突然やりたいことができた、と言って

よく文章を書いたり、色々な本を読んだりしていた。

僕は、この思い出をたくさんとっておけたらいいなと思い、

パシャ

お父さんにカメラを教わってみた。



へーっ、これ鶴川が撮ったのかーー！
スゲーじゃん
なんかいいね
写真コンテスト
最優秀賞
『飛んで踊ってしゃぼんの空』
いつ行ったの？
少しずつ、




いつだったかなあ・・・
たくさん撮りすぎててわかんないんだけど
パラ




とにかく適当にたくさん撮って、運良くいいのがあったら少し加工する感じで・・・色々良いのはファイルしてて
あ！ずりーっこれ俺も行きたかったヤツだ！くそーっ
パラ
パラ
少しずつ、
ファ〜〜・・・
パラ
パラ
俺のこと撮ってよ
この女の人だれーー？
少しずつ・・・
あ、これカワイーっ
パラ
パラ








パラ

心に、明かりが
灯っていくような

そんな気がした。

「僕はお姉さんがほしい」

作:きくお

ー

発行
Kikuo Sound Works
http://kikk.uunyan.com/

2013/12/31

印刷
しまや出版

## ・あとがき・

この作品は、ふだん、どちらかというと作曲をやっている私きくおが、2013/9～11の3ヶ月間で仕上げた、初めての漫画作品です。

昔から元々、漫画の物語やネーム的なものを作るのが好きだったのですが、遂に本気で描きあげたいと思う、つまり今回のネームが完成し、勢いで描き上げたために、ある日突然の漫画発表という感じになっていたかと思われます。

個人的にはこれでも気がおかしくなるような作業量でしたが、まだまだ描きたい物語があるので、慣れたりうまくなったりしたいと思います。
最後までお読みいただき、ありがとうございました！

p.s.
書籍版、刷りすぎて余ってるので記念にBOOTHからどうぞ（白目）